

# LIVING COURAGEOUSLY

A NEW CHURCH JOURNEY PROGRAM



**General Church Outreach**  
Lessons by Rt. Rev. Peter M. Buss, Sr.  
Applications by Star Silverman

天にいます私たちの父よ。

御名があがめられますように。

御国が来ますように。

みこころが行われますように。天で行なわれるように地においても。

私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。

私たちの負いめをお赦してください。

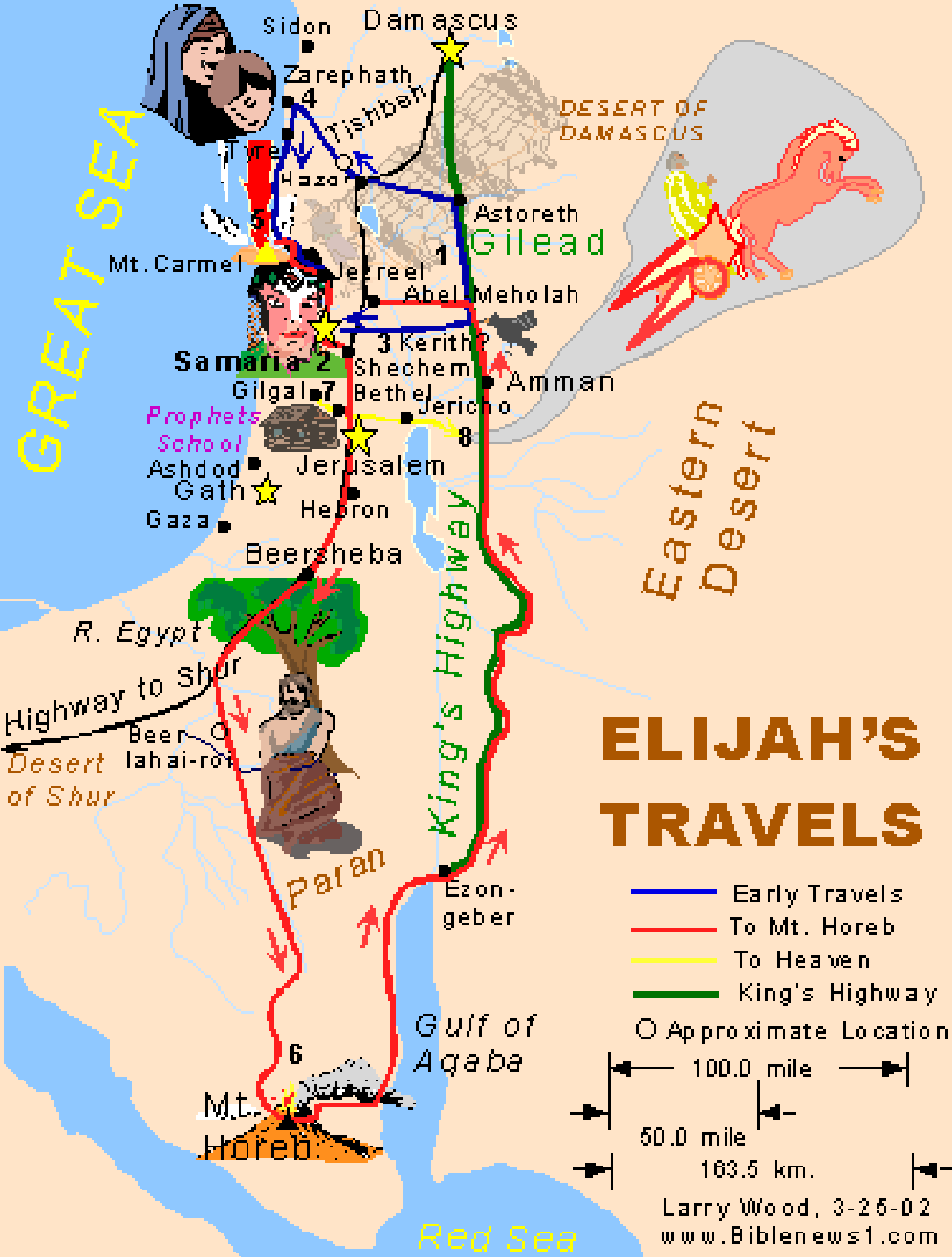
私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。

私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。

国と力と栄えは、とこしえにあなたのもものだからです。アーメン。

1	<p>自己の動機の自覚 自分の混ざった動機を見極めます。</p>	<p>からずに養われる、気づく 列王記 1 16:29-33, 17:1-7</p>
2	<p>真心から親切を行います 人に知られず善い行いをします。それは神の力であり、自分に帰してはなりません。</p>	<p>まず神に仕える やもめの服従 列王記 1 17:7-15</p>
3	<p>神の啓示を求めますー祈り みことばを読み、思索します。神の言葉によって力を与えられます。</p>	<p>新しい真理を見つける やもめの息子の新しい命 列王記 1 17:16-24</p>
4	<p>より高次の目的を設定し、情熱をもって生きてゆきます。 高次の真理から行うことを誓います。神にエネルギーと集中力を求め、情熱をもって生きてゆきます。</p>	<p>選択する 天からの炎 列王記 1 18:1-2, 18-46</p>
5	<p>小さく静かな声に耳を傾けます。 落ち込まないでください。愛する神の声が勇敢に進めという力強い励ましとなります。神はあなたと共におられることを知ってください。勝利は間近です。</p>	<p>勇気を見出す 洞穴から出る 列王記 1 19:1-18</p>
6	<p>霊的筋肉を動かす 謙虚な心から、神の命令に従う意志を強めるため必要な生き方を見極めます。そして実行します。</p>	<p>良心によって悟る アハブの後悔 列王記 21:1-20, 29</p>
7	<p>力と目的を持って勇敢に生きてゆきます。 みことばに基づいた信念からくる強さを感じます。神が自分の人生で奇跡を為さるという約束です。</p>	<p>マントを取る 列王記 2 2:1-18</p>





16:28 オムリは彼の先祖たちとともに眠り、サマリヤに葬られた。彼の子アハブが代わって王となった。

16:29 オムリの子アハブは、ユダの王アサの第三十八年に、イスラエルの王となった。オムリの子アハブはサマリヤで二十二年間、イスラエルの王であった。

16:30 オムリの子アハブは、彼以前のだれよりも主の目の前に悪を行なった。

16:31 彼にとっては、ネバテの子ヤロブアムの罪のうちを歩むことは軽いことであつた。それどころか彼は、シドン人の王エテバルの娘イゼベルを妻にめとり、行ってバルに仕え、それを拝んだ。

16:32 さらに彼は、サマリヤに建てたバルの宮に、バルのために祭壇を築いた。

16:33 アハブはアシュラ像も造った。こうしてアハブは、彼以前のイスラエルのすべての王たちにまして、ますますイスラエルの神、主の怒りを引き起こすようなことを行なった。

アハブ: 世への愛と自己愛からの礼拝

イゼベル: 世への愛と自己愛の喜び

バル: 所有者・主・夫 神の王 ダゴンの子 嵐の神

アシュラ: 神の妻 海の女神

エリヤ: その者の神はヤハヴェ 心にある主のみことばの真理  
信じて自分の心にある闇と戦えば、奇跡が起こる

アハブ・イゼベル・偽預言者ではなく、エリヤを選択する

アハブとイゼベルは、私たちの内にある利己的・世俗的な愛を意味する。彼らが、私たちの王と王妃となって私たちを支配すれば、破壊的な感情や思考、行動をもたらす。

自分の内のアハブとイゼベルが支配していないかを確認すること: 悔い改め

エリヤを選択: 自分の内に特定の悪が存在することを認め、神が禁じた故にそれに抵抗するなら、天界への旅を始めることとなります。

悪を避ける→消極的に聞こえるが、実は私たちが選択することのできる最も積極的なもの

すべての預言者は殺され、彼の戦いは一見無謀に見える。アハブとイゼベルの力は全土に及んでいる。エリヤは名の通り、ヤハヴェの力によって戦ってゆく。エリヤは失敗し、戦い、悲しみにくれる。しかし最後には勝利する。



**第一週：気づく  
自己の動機の自覚  
自分の混ざった動機を見極めます。**



17:1 ギルアデのティシュベの出のティシュベ人エリヤはアハブに言った。「私の仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。私のことばによらなければ、ここ二、三年の間は露も雨も降らないであろう。」

干ばつの預言：不親切や人を傷つけることを行い、その言い訳を探している身勝手な自分（アハブとイゼベル）を持っていることに気づかねばならない。それは神に向かわねば、干ばつ（無意味）をもたらし、ひいては飢餓（真の幸福、歓びの欠如）をもたらす。

自分を変え、神に従おうと、まず決心しなければならない。

それには、まず自分の弱さを認め、神に対して罪を犯していることを素直にみななければならない。



17:2 それから、彼に次のような主のことばがあった。

17:3「ここを去って東へ向かい、ヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに身を隠せ。

17:4 そして、その川の水を飲まなければならない。わたしは烏に、そこであなたを養うように命じた。」

17:5 それで、彼は行って、主のことばのとおりにした。すなわち、彼はヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに行って住んだ。

17:6 幾羽かの烏が、朝になると彼のところにパンと肉とを運んで来、また、夕方になるとパンと肉とを運んで来た。彼はその川から水を飲んだ。

最初、私たちは純粹ですばらしい天界の喜びや幸福に対して備えができていない。いくぶん不純で身勝手な動機で、天界を求めようとするが、主はそれをお許しになる。→カラスの運んでくるパンと肉

満員電車でお年寄りに席をゆずる：それ自体はいいことだが、実はまわりの人の目を気にして行っている。周りの人からのあらぬ非難を避け、賞賛という報酬を得ようとする隠れた動機さえある：入り交じった動機

いつかは純粹にお年寄りが喜んでくれるから、という純粹な動機で行わねばならない。



バアル : 欲にふけるための言い訳

アシュラ: 悪を善と感じさせる感情と利己的な歓喜

ギルアデ: 現実の生活 ヨルダン川の東

カラス: 偽りの考え、真理を誤解する。戒めを守りながらも、以前の身勝手な生き方の喜びも持っている。

主はそのような場合でも  
喜びを与えられる。

見返りを求める不純な心



無私の奉仕

主は奇跡によってお導きになる





AC4145② 再生される人は、一人残らず、まず中間的善の中に置かれますが、それは純粹な善と真理の導入という役割を果たすため、その役割を果たしたあと、切り離され、直接流入の善に導きいられます。そのようにして、再生される人は、段階的に完成されていきます。

例えば、再生される人は、考える善にしても、行う善にしても、自分自身の力によるもので、それなりに報われるはずだと、最初は信じます。善は他から注がれるものである事実を知らず、みずからそれを行ったための報いではないことも知らず、たとえ知ったとしても、理解できません。またそう信じていなければ、決して善を行えません。

善を行うときの情愛面でも、善や功績についての認識面でも、最初はこうして始まります。善を行うさいの情愛に導きいられると、その時、今までとは違ったことを考え、信じはじめます。すなわち善は主からの流入によることです。それと同時に、エゴから行う善によっては、手柄になるものは何もないことです。また善を欲し行う際の情愛にひたるとき、功績をまったく拒否するだけでなく、嫌悪し、善に根ざす善によって感化されるようになります。このような状態にあって、初めて直接流入の善があります。



③ 例えば、結婚愛の場合がそうです。先行する善、開始導入のさいの善といえは、美しさであり、習慣の一致であり、一方が他方にたいして外面的に適応することであり、両者の対等関係であったり、願わしい条件であったりします。

このような善は、結婚愛の最初の間善です。そのあと、魂が結ばれるときがきます。一方が他方と同じような意志をもちます。相手がよろこぶことをすることで、〈よろこび〉を感じとります。この状態は第二の状態ですが、以前の状態が残っていても、それを目標にすることはありません。

やがて、天的善と靈的真理の一致のときが来ます。それは一方が他方と、同じように信じ、一方も他方が感化されると同じ善で、感化されることです。この状態になると、双方とも同時に、善と真理との天的結婚のうちにいることになります。

それが結婚愛です。結婚愛とは、それに他なりません。つまり主は、二人の情愛にたいし、一つの情愛にたいするような流入を注がれます。これこそ直接流入の善です。間接的流入であった以前のは、直接の流入を導入するための媒介的役割を果たしたことになります。

AC4063 人が再生するとき、主は本人をある種の中間的善に保たれます。この善は、純粹の善と真理を導入するのに役立ちます。ところで、その諸善と諸真理が導入されたあと、中間的善は、切り離されます。再生とか、新しい人について、何か知っていれば、だれにも分かりますが、新しい人は、古い人に比べ、まったく別人になっています。なぜなら、新しい人は、靈的なことがらや、天的なことがらへの情愛の中にいるからです。靈的・天的なことがらが、本人の〈よろこび〉であり、至福になります。

それに対し、古い人は、現世的・地上的なことがらへの情愛の中にあります。そして現世的・地上的なことがらが、本人の喜びになり魅力になります。新しい人は、天界に目標を置いています。古い人は、この世に目標を置いています。それで、新しい人が古い人と、まったく異なる別人であることが分かります。

③ 古い人の状態から、新しい人の状態に導かれるためには、現世的欲望を脱ぎ捨て、天界の情愛を身につけなければなりません。これには数え切れないほどの手段があり、主おひとりをご存知です。主は多くのことを天使たちにお知らせになりますが、人にはほとんどお知らせになりません。ところが、〈みことば〉の内的意味によって、個々全体が明らかになります。

古い人から新しい人になるとき、つまり再生するとき、ある人が信じるように、瞬時ではありません。多くの年月がかかります。むしろ、人の最期にいたるまでの全生涯がかかります。本人の欲情が根絶され、天的情愛が染み込んでこなくてはなりません。以前身に付けていなかった〈いのち〉、いや夢想だにしなかった〈いのち〉をいただくかねばなりません。本人の〈いのち〉の状態が、こう変わっていくには、ある種の中間的善の中に、長らく留まる必要があります。これは、現世的情愛と天的情愛の双方をわけもつ善です。この中間的善に留まらない限り、天的善や天的真理をいただくことはありません。



- ①今どこにいるのか？
- ②これからどこに向かうのか



## エリヤとの旅の出発

まず私たちには干ばつと飢餓がある。神、すなわちより高い、  
貴い考え、現実にそこに生きること、に対して自らを閉ざして  
いる。

真の喜びを失っている。何が必要か、気づかねばならない。  
何が足りないか、どこに向かうべきかをよく考えなければな  
らない。

しかし最初は純粹に神と隣人につくすというより、やや身勝  
手な動機、そこから抜け出すため行う。

生き方を変え、現状から抜け出すために(混ざった動機)善  
いことをしなければならない。



## 課題: 混ざった目的

1. 家では批判的だが人前ではそうでない。それは自分が悪く思われたくないため
2. 仕えるためではなく、人に大切にされ評価されたいがために高い地位を求める
3. 人に自分は寛大だと思われるために寛大にふるまう
4. 人にすかされたいがため、感謝する
5. 人に感謝されたいがために時間や才能をつぎこむ
6. 人よりすぐれたいと思い、試練と戦う
7. 神を礼拝するためではなく、自分が霊的な人間だと、あるいは・・・だと思われたいがため、礼拝に参加する
8. ……自分で加えてみましょう。

## 深く考えてみましょう: 自分には不純な動機が混ざってないか？

外見上は善い動機に見せかけ、人の悪口を言い、暴飲暴食し、怒っているが、実はその動機を正当化のために用いている。

- 子供にしつけをするためだと、子供をしかりつける
- 人付き合いを良くするため、お酒を飲み過ぎる
- 自分が冷静な判断をし、集中するために一服するといってタバコを飲み続ける

→ 正当化している理由を剥がし、隠れた動機を見いだします。

心を鍛えます: 早朝、日々の喧噪に入る前、聖書の聖句を心に浮かべて思いを巡らせる・夕方・就寝前 瞑想タイム

瞑想によって心を鍛錬

例: 子犬をトレーニングして、リスや獲物を見て走り出さないよう、しつけをする。

## さらなる熟考

1. 自分は結局見返りを求めることは愛と幸福を生み出さない、ということに気づいたとき、あなたはどうしますか？
2. 自分勝手な目的に、問題として気づいたら、どうしますか？
3. どんなときに最小限の自分を省みなければならないでしょうか？働きすぎて病気になるとき・自分の能力を超えた約束をするとき・自分の家族を犠牲にして人に報いようとするとき
4. あなたの動機はしばしば混じり物がはいっています。次の絵を見てみましょう。隠れた動機を見つけ出します。





手帳に、自分の霊日記をつづります。

これは自己点検の記録です。

書くことで気づき、自分の傾向を思い出し、そこから改めます。これは自分だけの日記です。

しかし、人に紹介してあげることも自分にも人にも有用です。

1. 善いことをしました。その中に見返りを求める心がないか？探り出しましょう
  2. ある行動が何か他のものを必要として行っていないか探します。人から賛意を得たい、自分がえらく思われたい、自分を守るため、愛してもらいたため
  3. 何かをおそれて行動してないか？罰をおそれる、苦痛を避けたがる、人の反対をおそれる、自分が十分善でないことをおそれる・・・
- 人前や女友達の前できらわれたくない、尊敬されたいためかっこをつけてしまう。
  - 自分に確信がないのに、人に尊敬してもらいたため、立派でえらいようなことを述べてしまった。



第二 まず神に仕えよ



ルカ 6:35 ただ、自分の敵を愛しなさい。彼らによくしてやり、返してもら  
うことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いは  
すばらしく、あなたがたは、いと高き方の子どもになれます。なぜなら、  
いと高き方は、恩知らずの悪人にも、あわれみ深いからです。



17:7 しかし、しばらくすると、その川がかれた。その地方に雨が降らなかったからである。

17:8 すると、彼に次のような主のことばがあった。

17:9 「さあ、シドンのツアレファテに行き、そこに住め。見よ。わたしは、そのひとりのやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」

17:10 彼はツアレファテへ出て行った。その町の門に着くと、ちょうどそこに、たきぎを拾い集めているひとりのやもめがいた。そこで、彼は彼女に声をかけて言った。「水差しにほんの少しの水を持って来て、私に飲ませてください。」

17:11 彼女が取りに行こうとすると、彼は彼女を呼んで言った。「一口のパンも持って来てください。」

17:12 彼女は答えた。「あなたの神、主は生きておられます。私は焼いたパンを持っておりません。ただ、かめの中に一握りの粉と、つぼにほんの少しの油があるだけです。ご覧のとおり、二、三本のたきぎを集め、帰って行って、私と私の息子のためにそれを調理し、それを食べて、死のうとしているのです。」

17:13 エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、まず、私のためにそれで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。それから後に、あなたとあなたの子どものために作りなさい。

17:14 イスラエルの神、主が、こう仰せられるからです。『主が地の上に雨を降らせる日までは、そのかめの粉は尽きず、そのつぼの油はなくなる。』

17:15 彼女は行って、エリヤのことばのとおりにした。彼女と彼、および彼女の家族も、長い間それを食べた。





17:7 しかし、しばらくすると、**その川がかれた**。その地方に雨が降らなかったからである。

17:8 すると、彼に次のような主のことばがあった。

17:9 「さあ、**シドンのツアレファテ**に行き、そこに住め。見よ。わたしは、そのこのひとりのやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」

17:10 彼はツアレファテへ出て行った。その町の門に着くと、ちょうどそこに、たきぎを拾い集めているひとりのやもめがいた。そこで、彼は彼女に声をかけて言った。「水差しにほんの少しの水を持って来て、**私に飲ませてください**。」

17:11 彼女が取りに行こうとすると、彼は彼女を呼んで言った。「**一口のパンも持って来てください**。」

17:12 彼女は答えた。「あなたの神、主は生きておられます。私は焼いたパンを持っておりません。ただ、かめの中に**一握りの粉**と、つぼに**ほんの少しの油**があるだけです。ご覧のとおり、二、三本のたきぎを集め、帰って行って、私と私の息子のためにそれを調理し、それを食べて、死のうとしているのです。」

17:13 エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、**まず、私のために**それで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。それから後に、あなたとあなたの子どものために作りなさい。

17:14 イスラエルの神、主が、こう仰せられるからです。『**主が地の上に雨を降らせる日までは、そのかめの粉は尽きず、そのつぼの油はなくなる**ない。』」

17:15 彼女は行って、エリヤのことばのとおりにした。彼女と彼、および彼女の家族も、長い間それを食べた。

17:7 しかし、しばらくすると、**その川がかれた**。その地方に雨が降らなかったからである。

以前の混ざり物の動機は、もはや役にたちません。

17:8 すると、彼に次のような主のことばがあった。

17:9 「さあ、**シドンのツアレファテ**に行き、そこに住め。見よ。わたしは、そのこのひとりのやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」

イスラエルの地は、エホバが礼拝され、偶像を礼拝するまわりの地よりも高い霊的状态が表されています。エリアにツアレファテ行きは、自分の善が純粹でないことを認めることを表します。自分が霊的な異邦人と認めることは、卑下となります。

17:10 彼はツアレファテへ出て行った。その町の門に着くと、ちょうどそこに、たきぎを拾い集めているひとりの**やもめ**がいた。

夫、すなわち真理がないことをやもめは表していますが、ここはより純粹な真理を探す期間です。

そこで、彼は彼女に声をかけて言った。

「水差しにほんの少しの水を持って来て、**私に飲ませてください**。」

これはより善い真理を求めていること、功績ではない純粹な真理を求めていることを表します。



17:11 彼女が取りに行こうとすると、彼は彼女を呼んで言った。「**一口のパンも持って来てください。**」→誤訳：**あなたの手にあるわずかなパンをください**

**手は力をあらわします。自分を真の善に突き動かす力をもつ真理をもとめます。**

17:12 彼女は答えた。「あなたの神、主は生きておられます。私は焼いたパンを持っておりません。ただ、かめの中に**一握りの粉**と、つぼに**ほんの少しの油**があるだけです。ご覧のとおり、二、三本のたきぎを集め、帰って行って、私と私の息子のためにそれを調理し、それを食べて、死のうとしているのです。」

**今ある動機は尽き果てようとしています。混ざり物の不純な動機はもはや役に立ちません。これが善にある幸福のすべてならば、もはや支えてゆくことができません。残りの人生をその動機で生きてゆくなら、餓えてしまうことでしょう。**

17:13 エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、**まず、私のために**それで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。それから後に、あなたとあなたの子どものために作りなさい。

**人生でこのような問題や決断を求められたなら、自らに尋ねてください「ここで主は私に何を望みなのか？」最初はこれを意識して行い、そのうち習慣となってゆきます**

17:14 イスラエルの神、主が、こう仰せられるからです。『主が地の上に**雨を降らせる日までは、そのかめの粉は尽きず、そのつぼの油はなくなる**ない。』

17:15 彼女は行って、エリヤのことばのとおりにした。彼女と彼、および彼女の家族も、長い間それを食べた。

**これを行えば、行ったことに主は力と喜びを吹き込まれるという奇跡を行われます。主はその日に見合うだけのものを与えられます。しかしこれを毎日続けることで、人には真の進歩があります。そしてその後、心底満足でき、前向きな真理があります。雨はすべてを成長させます。**



ルカ6:35 ただ、自分の敵を愛しなさい。彼らによくしてやり、返してもらうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いはすばらしく、あなたがたは、いと高き方の子どもになれます。なぜなら、いと高き方は、恩知らずの悪人にも、あわれみ深いからです。

## 真のキリスト教(アルカナ)746

「創造された当初、人には英知と、その英知への愛がしみこんでいました。それも自分のためではなく、むしろ他の人たちと自発的に共有するためでした。知者の英知に刻みこまれていたことは、英知は自分ひとりでは味わえないこと、他の人々と共有しないかぎりには、生きてこないことでした。したがって、他の人々と生活をともにし、役立ちを行うために、社会が存在するわけで、それがなかったら社会もないということです。かれらを結びあわせていたものは、役立ちで、それは善の役立ちの数と同じだけあります。しかも、役立ちの数には限りがありません。霊的役立ちとは、神への愛と、隣人への愛です。道徳的・民事的な役立ちとは、人が住んでいる社会や国家への愛、自分が生活をともにしている同僚や市民への愛です。自然的役立ちとは、この世への愛、世にある生活必需的なものへの愛です。肉的な愛とは、より高次の役立ちのために、自分自身を維持していききたいと思う愛です。

ヨハネ6:27 なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。」

6:28 すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。」

6:29 イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」

6:30 そこで彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなことをなさいますか。」

6:31 私たちの先祖は、荒野でマナを食べました。『彼は彼らに天からパンを与えて食べさせた。』と書いてあるとおりです。」

6:32 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。」

6:33 というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。」

6:34 そこで彼らはイエスに言った。「主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。」

6:35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」



## マタイ

6:1 人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から、報いが受けられません。

6:2 だから、施しをするときには、人にほめられたくて会堂や通りで施しをする偽善者たちのように、自分の前でラツパを吹いてはいけません。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。

6:3 あなたは、施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知られないようにしなさい。

6:4 あなたの施しが隠れているためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

まず、神に仕えよ。

17:13 エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、まず、私のためにそれで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。それから後に、あなたとあなたの子どものために作りなさい。

→これは私たちへのことば

神は私たちの生活を変えてくださることができる、と信じること

『主が地の上に雨を降らせる日までは、そのかめの粉は尽きず、そのつぼの油はなくなる。』→私たちの生活は意義あるものとなる。

神が変化に必要なものすべてを備えてくれることを信じなければならぬ。この信仰は恐怖を抑え、本物の幸福へと導いてくれる。

混ざり物の動機(からず)はしばらくの間は役に立つ。  
自分の行いには、必ず自分の功績を求めている動機があることに気づき、見、知らなければならない。

すると、より高い力があることを喜んで信じることとなる。  
善をなす力は、すべて神お一人からきていることを悟る。

神が力を与えていることに気づけば、功績を求める力に抵抗することができる。

「国と力と栄は、とこしえにあなたのもものだからです。」

自己の栄光を求めることがむなしいことであることに気づく。



## 今週の課題

「どうすれば、神を第一にすることができるだろうか？」

「神よ、あなたは今何を望んでおいでですか？」

これは自分のことを全く振り返るなということではなく、また困っている人を助けるな、ということでもない。

神の愛を心に膨らませ、人への親切を行うこと。

自分に見返りを求めることなく、善を行う。

もし、自分中心の思考が入ってくれば、

「主よ、ありがとうございます」

「これは主がされた業だ」

「主よ、これはあなたの業です」

と考える。

## 今週の課題

数多くの純粋な親切、善を行えるチャンスがあります。手をさしのべましょう。あなたにうちに神の愛と力があることを思い出してください。

力の源を思い出して！

神に栄光を帰します。

すると、自己への功績を求める心を抑えることができます。

親切の結果である人の歓びを、ただ見て楽しんでください。

日々の活動で神のみこころを求めて、それに従ってください。

## 純粋な優しさを行う機会

- まず最初に、自分自身を優しく扱いましょう
- 自分自身をおしつけることなく、人に何が捧げることができるか？心を開きましょう。
- 励ましましょう／ためにならない言葉は慎みましょう
- 孤独な人とともにいてあげてください。
- 本当に必要なときに助けてくれた人に感謝の気持ちをしたためましょう
- 批判をやめ、優しく、真実で、有用な言葉を口にしましょう
- 黄金則を実行しましょう—自分がしてもらいたと思うことを人にしてあげます
- やさしい感謝や賞賛の言葉をかけてあげましょう
- 自分や人を赦せる可能性に心をひらきます。
- ほほえみましょう
- 人のやさしさに気づいてあげます。



## 純粋な優しさを行う機会

- 配偶者にいいことをしてあげてください
- じっくりと聞いてあげることは贈り物です
- 隣人の誰かに親切を申し出てみます
- 誰かを救うためにちょっと回り道をしてみましょう、
- 困っている人にやさしくしてあげましょう。
- 仁愛のために自分の時間を進んで捧げます
- 人の善いところを探します
- 喜んで人に親切をしてあげましょう(たとえ断れても)
- 一週間の間、無理をしない範囲で「はい」と言ってみましょう
- 人の幸せを喜びましょう

自分で探して、付け加えます

- 
- 
-

- 自分の善行を積み上げていることがありますか？ やもめが薪を探していたように。そこで、何か見返りを求めていますか？
- 自分に新しい質問をしてください。「神よ、どうすればあなたを先にすることができますか？」するとさらに新しい質問に進むことができます。「自分の配偶者を、どうすればより愛することができますか？」「どうすれば人の求めに気づくことができますか？」自分自身の求めることから、人の求めることへと、座標を移しましょう。
- 心の中で、「神をまず第一にする」練習をします。何か問題が起これば、すぐさま神に導きを求めます。
- 人の感謝を受け入れる練習をします。そのとき人の心にある愛と気遣いを感じます。そして、心の中ですぐ、神に功績を歸し、人を助けてあげることができたことを感謝します。これが習慣となれば、それはあなたの心の一部になります。
- 優しい考えや言葉、行いが自分の霊にどんな影響を与えるか注意してみましょう。

純粹な親切をすることは、逆にリスクもあります。

自分の行った親切が全く感謝されないこともあります。  
拒否や馬鹿にした態度で返されることもあります。

しかし、何事にもリスクはあります。  
逆に何もしなければ、人と新たな関係を気づけるチャンスを失います。  
より深い自分を見つけるチャンスを失います。  
主とより親しくなるチャンスを失います。  
見返りも結果ももとめず、ただ親切を行いましょう。



**まず自己に仕える  
（何を得ることができるか？）**

今日の礼拝はつまらなかった。  
礼拝音楽がまったくさえない。

**まず神に仕える  
（自分に何ができるか？）**

どんな音楽がいいか提案してみたい。  
神よ、ありがとうございます。この集会  
は多くの人に役立つものです。私にも感謝  
できるものを見いださせてください。

**1頼まれないのに、助言をしないこと。**

**2人の話をさえぎらないこと。**

**3時間を守りましょう。人の時間を盗まないように。**

**4自分自身のことだけを語ること**

**5わかちあうのが目的です。教えるのではありません。**

**6パスしてもかまいません。**

**7実際の名前を使わないこと。**

**8秘密を守ること。**

17:16 エリヤを通して言われた主のことばのとおり、かめの粉は尽きず、つぼの油はなくならなかった。

17:17 これらのことがあって後、この家の主婦の息子が病気になった。その子の病気は非常に重くなり、ついに息を引き取った。

17:18 彼女はエリヤに言った。「神の人よ。あなたはいったい私にどうしようとなさるのですか。あなたは私の罪を思い知らせ、私の息子を死なせるために来られたのですか。」

17:19 彼は彼女に、「あなたの息子を私によこしなさい。」と言って、その子を彼女のふところから受け取り、彼が泊まっていた屋上の部屋にかかえて上がり、その子を自分の寝台の上に横たえた。

17:20 彼は主に祈って言った。「私の神、主よ。私を世話してくれたこのやもめにさえもわざわざを下して、彼女の息子を死なせるのですか。」

17:21 そして、彼は三度、その子の上に身を伏せて、主に祈って言った。「私の神、主よ。どうか、この子のいのちをこの子のうちに返してください。」

17:22 主はエリヤの願いを聞かれたので、子どものいのちはその子のうちに返り、その子は生き返った。

17:23 そこで、エリヤはその子を抱いて、屋上の部屋から家の中に降りて来て、その子の母親に渡した。そして、エリヤは言った。「ご覧、あなたの息子は生きています。」

17:24 その女はエリヤに言った。「今、私はあなたが神の人であり、あなたの口にある主のことばが真実であることを知りました。」





**第三週 新しい真理を発見する 祈り**

## 新しい真理の発見

やもめの息子：病で危篤そして死

やもめ：絶望 夫はすでに死に今息子も失う。

当時の宗教：やもめが罪を犯し、神が罰した結果

エリヤがこの罰をもたらしにきた

息子はやもめが年老いて養ってくれるはずであった。

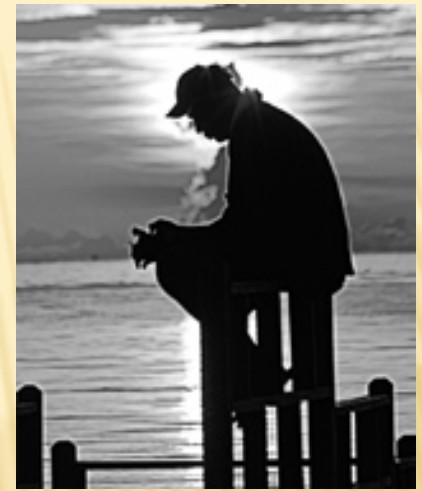
エリヤは死んだ息子を奪い屋上に連れて行き、エホバに祈る。

エリヤは三度、その子の上に実を伏せて祈る。

息子は生き返る。

エリヤは屋上から戻り、やもめに息子を引き渡す。

「今、私はあなたが神の人であり、あなたの口にある主のことばが真実であることを知りました。」



## より深いメッセージ

信仰生活が進むにつれ、毎日に十分な喜びがあることを知ります。  
しかし、自分の信仰が進むにつれ、その信仰(息子)が死んでしまうようになった日がやってきます。

以前の真理はもはや輝きません。  
自分は信仰を失ったような状態です。  
神は見放されたのでしょうか？

ここで人は再びみことばに戻らなければなりません。  
戻って、失った真理を探します。

最初に得た真理は、非常に限定されているので、わずかしか働きません。  
自分の心を整えてください。  
エリヤがしたように、主に懸命に祈ってください。  
新しく、成熟した洞察を見いだしてください。  
すると奇跡が起こり、新しく真理を見だし、確信はより堅くなります



やもめの息子：幸福の源 絶望の淵

エリヤは自分の描いたものとは異なる計画を主がお持ちであると感じた。

自分の持つ信条が、もはや働かないと感じたら、その絶望はいかに深いものでしょうか。

ここでの奇跡は、みことばに向かうことで、その信仰は蘇り、より堅いものとなることです。



息子の死：以前働いていた信仰の信条が働くこと。例：若い二人が想像していた結婚生活が現実裏切られる

子供の誕生による台風のような子育て生活・夜間授乳

仕事や家事に追いまくられる

未来に対する不安

やもめがエリヤに向かって泣き叫ぶ：二人は荒廃する。自分たちの責任だと思  
いこむ。主は真の幸福を約束されながら、それを破られたと思う。

エリヤ：「あなたの息子を私によこしなさい」

苦難と混乱にあって、みことばに戻り、真理を求めることは簡単ではない。神を  
責め、神に泣き叫ぶほうが多い。

主に至るまで自分の信条や信仰を捧げる。みことばにより深い生活観を求める。  
教会の牧師や先輩たちと話す。自分の必要とする真理の深い洞察をさがし求  
める。

新改訳 [JOH]

4:7 ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは「わたしに水を飲ませて  
ください。」と言われた。



エリヤが屋上の部屋に息子を運ぶ：主と交流し、主の真理を求める神聖な場所が心の中にあります。人生の雑事をすべて離れ、静かな場所で新しい真理を探すべく時間を作り出す必要があります。

[MAT] 6:6 あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋にはいりなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

エリヤの祈り：物事がうまくゆかないとき、祈らねばなりません。

息子が生き返る：目的にあった真理を得るという奇跡が起こります。仲が悪くなった二人は、善きそして理解し信頼しあえる友人となります。ストレスを制御する方法を学び、ぶっきらぼうな返答をしない等・・

新改訳 [PSA]

**80:18** そうすれば、私たちはあなたを裏切りません。私たちを生かしてください。私たちは御名を呼び求めます。

新改訳 [JOH]

**12:24** まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。

エリヤ:「ごらん、あなたの息子は生きている」

ルカ15:7 あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にあるのです。主が感じる喜びを想像してください。

やもめの喜び:若い二人は結婚生活に新たな意義を見いだします。

やもめの告白:より深い信仰の誕生 主のみことばに対する本当の信頼が生まれます。

応用:新しい真理を見いだす

エリヤは、自分の中でみことばの文字の力を信じる部分です。

それはくじけたとき、霊的な生命を失いかけたとき、よみがえらせてくれます。

屋上の部屋は、各人の心の中にある霊的な事柄に専念できる部分です。

そこにあがって祈るなら、やもめの息子がよみがえったように、霊的な新しい生命がよみがえります。

霊的な生命がなくなってしまうとき、そして神から切り離されてしまったと感じるとき、これがやもめの息子の死によって意味されるときです。

そんなときは「屋上の部屋」にゆきます。ここは神と語り合う、聖なる場所です。

そこでは正直に、誠実に考えます。

心のかしましさを鎮めて、謙虚な心になることができたなら、新しい真理を得て、新しい生命をもたらす靈感を得ることができます。

今週は祈りの週です。聖典を読み、深く考えましょう。

聖典を心に置いて、それを従って生きていきます。聖句が心に書き込まれるように



**啓示を求めて祈る**

**聖典を読み、深く考える。神のみことばによって啓発される**

**今週は聖典を深く考えるチャンスです**

- ・家族とともに朝夕の祈りをします。聖書を回しながら朗読します。
- ・家族として祈ります。主の祈りから初め一人一人が祈ります。
- ・食事ごとに順番に祈りをします。最初は聖典を用います。
- ・子供に聖書の物語をします。あるいは子供に話しをしてもらいます。
- ・家のどこかを祈りの場所とします。瞑想と啓示の場所です。
- ・ポストイットやメモ帳に聖句や祈りを書いて、仕事や家事の際にまわりに貼っておきます。
- ・靈感の豊かな場所で聖典を読みます：岡の上、水辺など
- ・近くの教会や近所の聖書研究会に参加します

- ・教会グッズ販売店にゆき、啓発を受けそうなものを探します
- ・インスピレーションを受けそうな音楽CDを購入し、聴いて心を満たします。
- ・インスピレーションを受けた節や文に付箋を貼ります。
- ・索引を見ながら、心惹かれる句を探します。
- ・友人にお願いしてともに祈ってもらいます。
- ・バッグにお気に入りの聖句をしのばせます
- ・カードに聖句を書いて持ち歩きます。
- ・聖句を記憶します。
- ・日の最初と終わりにみことばを読みます。
- ・週中にある礼拝に参加します。
- ・お気に入りの聖句帳を造ります。

ひらがな・カタカナ・漢字を覚えたとき、  
九九を覚えたとき、  
生ゴミと不燃ゴミの曜日は？  
パソコンのパスワードや銀行口座の暗唱番号は？

生活に関連するものを覚えるとき、どんなに真剣に覚えたことでしょうか。

さて、信仰生活にあって、どれだけみことばに取り組む時間を持っていますか？

暗記している聖句はありますか？



マタイ28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るよう  
に、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたと  
ともにいます。

ヨハネ 13:34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛  
し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互  
いに愛し合いなさい。

真のキリスト教 74 神は絶え間なく存在される。

マタイ19:26 神にはどんなことでもできます。

イザヤ41:10 恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあな  
たの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、  
あなたを守る。

ヨシュア1:9 わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れ  
てはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこ  
にでも、あなたとともにあるからである。

レビ記26:12 わたしはあなたがたの間を歩もう。わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。

マタイ6:34 だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。

真のキリスト教89 あなたが神に近づき、そばによるに依じて、神はあなたに近づきあなたのそばにおられる。

マタイ7:7 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。

7:8 だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。

真のキリスト教43 神の愛は善人だけではなく悪人にも進みます。神は天界にいるものだけではなく、地獄を選択したものも愛されます。なぜなら神は偏在され、そして永遠に変わりません。

ヨハネ16:33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。

イザヤ40:31 しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れぬ。

ヨハネ14:27 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。



幕屋の中で、儀式がもう一つ行われます。これは重要であり、独自に扱うだけの価値があります。それは祭壇での、香の献げ物です。これは祈りをあらわしています。出エジプト記では、アロンが、主へ香の献げ物行なう儀式を、一つ一つ入念に述べています。

最初に命じられたことは、身を洗い、清めることです。外庭にある洗盤で、手と足を聖く清めなければ、アロンは幕屋の内側に入ることを許されませんでした。

次にアロンは、いけにえの祭壇に行き、燃える炎から火をとります。香の献げ物に、決して他の火は使えません。事実、アロンの子らが、香の献げ物に、見知らぬ神の祭壇から火をとり献げた瞬間、処刑されます(レビ記10: 1-7)。

さらに、アロンは祭服をまとい、胸に金の胸当てをつけて、聖なる場所(部屋の内側)に入ってゆきます。胸当ては、12の宝石によって飾られ、その宝石はイスラエルの12の民族をあらわしました。アロンは祭壇に近づき、外からとった火で、香に炎をともします。そして、至聖所に向かって前に進み、民に関する問題を、主に判断を求めながら、香を前後にあおぎます。その時、主は胸当ての宝石のきらめきで答えてくれるといわれています。

アロンが香を点火する鮮やかな情景は、私たちが祈りによって主へ近づく際の、指針を示してくれています。

1. アロンの洗盤で洗い清めは、祈りによって、主に近よる際の姿勢を語っています。心構えは、謙虚であるべきです。靈的に手と足を洗うことは、私たちにできうる最も大切なことの一つです。主のみ心を伺うには、--自分の利己的な〈いのち〉を捨て去り--主の前で、悔い改めねばなりません。純粹な気持ちで祈れば、主から啓示があります。祈りの時、〈いのち〉について、前には見たことのない何かが見えます。天界の光を、かいま見ることができるのです。この新しい光を見ることができるときの唯一の方法が、靈的に手と足を洗うことなのです。「わたしの願いどおりではなく、御心のままに」、との主の〈みことば〉を、まず優先させねばなりません。

2. 火は、献げ物の祭壇からとらねばなりません--献げ物、すなわち他人に役だつ生き方です。主は人が祈っても、その内容には関心を示されません。人の祈りの内容は、新しい仕事のことであったり、健康であったり、隣人の快適な暮らし等の、現世的で世俗的なものです。祈りは日々の生活のことでもかまいませんが、同時に、靈的でなければなりません。主が関心を示されるのは、祈りの背景にある情熱や動機です。天に向けて上ることが許される献げ物の火は、主と隣人へ仕えようとする〈いのち〉です。祈りが自己愛から出ているなら、主は聴かれません。真の祈りは、究極的には、他人のために行います。真の祈りは、生活の中にある礼拝--日々祭壇に献げ物をする事です。この献げ物からとった火は、人の〈いのち〉の外の部分と、内の部分を結び付けます。それはちょうど、内側の香の祭壇と、外側の献げ物の祭壇が、香の献げ物の火によって結び付けられるようなものです。



3. アロンが奥の部屋に入るように、聖なる所へ入らねばなりません。そこで、イエスの教えを思い出します。「だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。」(マタイ6.6) 祈りは、献げ物です。祈りはお願い事ではなく、神を見上げて近づくことです。香は、心の最も奥の部分にある、純粹で、まじりけのないものをあらわします。それは、内的すなわち、靈的な思考と感覚です。祈りとは、幕屋の外で、あわただしい日常に追われて、失いがちな高い思考や感覚を、明らかに認める時です。主は祈りの間、人の心に、明かりを燈されます。主と、靈的な考えをかわします。この内奥の感覚は、言葉にあらわす必要すらないかもしれません。ただ主と対座して、主の存在を感じることが、祈りの形です。真の祈りは、神とともに「安らぐ」場所にいることです。その場所で、主のお答えとして、内的な希望、慰め、そして喜びを、受けることができます。

4. アロンが、胸当ての宝石を見つめています。すると、天界の光が応えて、宝石の面(ファセット)が輝き、色が変化します。祈りの最後の段階は重要で、ただ神に耳を傾けることです。祈りの本質は、聴くことにあります。祈りに対して、主が答えることができるようにと、お命じになっているのです。祈りは双方向のプロセスです。方針を伺い、回答を求めて、主に祈ります。しかし、問いかけに対して、主が語りかけようとする瞬間、「アーメン」と言って、祈りを切り上げてしまうことがよくあります。主に語っていただくためには、沈黙の時間が必要です。主は、必ず語られます。主は、宝石の不思議な輝きで応えられます。すなわち、心のなかに持ち込んだ、主の〈みことば〉という真理に、天界の光をひらめかせるのです。



幕屋のイメージで示される、祈りについての最終的な考察は、二つの祭壇の意味であらわされています。献げ物の祭壇と、香をたく祭壇です。香をたく祭壇は、幕屋の中に、奥深くに隠れています。しかし、そこから火をとる献げ物の祭壇は、外庭で、人目をはばからず燃えています。最初のもものは、心の中の隠れた内奥の部屋に行き、ドアを閉じて、父に祈って密かにお会いする、という祈りをあらわしています。しかし、もう一つ祈りは、もっと開かれたものです。、主の王国に仕えようという気持ちから、日々の仕事を行なえば、それがどんなものであろうとも、主は、その仕事を祈りとして見ておられます。そして、仕事という献げ物の煙が、天界に向かって昇ってゆきます。イエスは、「絶えず祈らなければならない」とおっしゃられました。それは、人生のいかなる時であっても、主への献げ物の祈りを、態度として示すことができる、という意味です。(ルカ18:1)



## 第四週 選択

より高い目的を定め、情熱をもって生きる

## マルコ

12:29 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。』

12:30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

18:1 それから、かなりたって、三年目に、次のような主のことばがエリヤにあった。「アハブに会いに行け。わたしはこの地に雨を降らせよう。」

18:2 そこで、エリヤはアハブに会いに出かけた。そのころ、サマリヤではききんがひどかった。

## 天からの火

エリヤの出発      オバデヤ:アハブの執事・エホバの忠実な僕

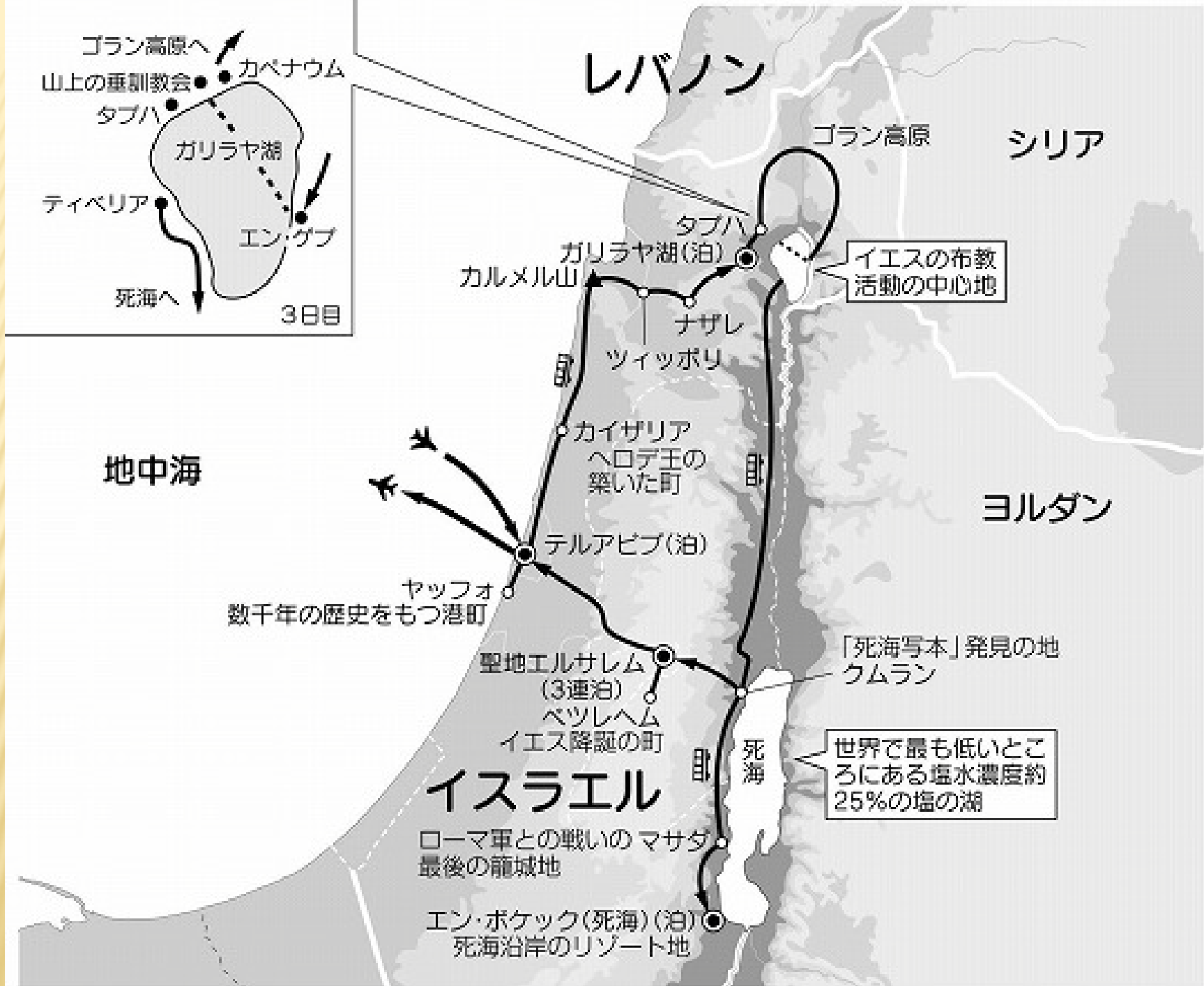
アハブ「これはおまえか。イスラエルを煩わすもの。」



18:18 エリヤは言った。「私はイスラエルを煩わしません。あなたとあなたの父の家こそそうです。現にあなたがたは主の命令を捨て、あなたはバアルのあとについています。

18:19 さあ、今、人をやって、カルメル山の私のところに、全イスラエルと、イゼベルの食卓につく四百五十人のバアルの預言者と、四百人のアシェラの預言者とを集めなさい。」

18:20 そこで、アハブはイスラエルのすべての人に使いをやり、預言者たちをカルメル山に集めた。







全イスラエルに

「あなたがたは、いつまでどっちつかずによろめいているのか。  
もし、主が神であれば、それに従い、もし、バアルが神であれば、それに従え。」

しかし、民は一言も彼に答えなかった。

そこでエリヤはある勝負を挑む。  
一頭の雄牛を選び、それを切り裂き、たきぎの上に載せよ。  
彼らは火をつけてはならない。

あなたがたは自分たちの神の名を呼べ。私は主の名を呼ぼう。そのとき、火をもって  
答える神、その方が神である。



そこで、彼らは与えられた雄牛を取ってそれを整え、朝から真昼までバアルの名を呼んで言った。

「バアルよ。私たちに答えてください。」

しかし、何の声もなく、答える者もなかった。

そこで彼らは、自分たちの造った祭壇のあたりを、踊り回った。

真昼になると、エリヤは彼らをあざけて言った。「もっと大きな声で呼んでみよ。彼は神なのだから。きっと何かに没頭しているか、席をはずしているか、旅に出ているのだろう。もしかすると、寝ているのかもしれないから、起こしたらよかろう。」

彼らはますます大きな声で呼ばわり、彼らのならわしに従って、剣や槍で血を流すまで自分たちの身を傷つけた。

このようにして、昼も過ぎ、ささげ物をささげる時まで騒ぎ立てたが、何の声もなく、答える者もなく、注意を払う者もなかった。

エリヤが民全体に、「私のそばに近寄りなさい。」と言ったので、民はみな彼に近寄った。それから、彼はこわれていた主の祭壇を建て直した。

18:31 エリヤは、主がかつて、「あなたの名はイスラエルとなる。」と言われたヤコブの子らの部族の数にしたがって十二の石を取った。

18:32 その石で彼は主の名によって一つの祭壇を築き、その祭壇の回りに、ニセアの種を入れるほどのみぞを掘った。

18:33 ついで彼は、たきぎを並べ、一頭の雄牛を切り裂き、それをたきぎの上に載せ、

18:34 「四つのかめに水を満たし、この全焼のいけにえと、このたきぎの上に注げ。」と命じた。ついで「それを二度せよ。」と言ったので、彼らは二度そうした。そのうえに、彼は、「三度せよ。」と言ったので、彼らは三度そうした。

18:35 水は祭壇の回りに流れ出した。彼はみぞにも水を満たした。

18:36 ささげ物をささげるころになると、預言者エリヤは進み出て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があなたのしもべであり、あなたのみことばによって私がこれらのすべての事を行なったということが、きょう、明らかになりますように。

18:37 私に答えてください。主よ。私に答えてください。この民が、あなたこそ、主よ、神であり、あなたが彼らの心を翻してくださることを知るようになしてください。」

18:38 すると、主の火が降って来て、全焼のいけにえと、たきぎと、石と、ちりとを焼き尽くし、みぞの水もなめ尽くしてしまった。





18:39 民はみな、これを見て、ひれ伏し、「主こそ神です。主こそ神です。」と言った。

18:40 そこでエリヤは彼らに命じた。「バアルの預言者たちを捕えよ。ひとりものがすな。」彼らがバアルの預言者たちを捕えると、エリヤは彼らをキシヨン川に連れて下り、そこで彼らを殺した。

18:41 それから、エリヤはアハブに言った。「上って行って飲み食いしなさい。激しい大雨の音がするから。」

18:42 そこで、アハブは飲み食いするために上って行った。エリヤはカルメル山の頂上に登り、地にひざまずいて自分の顔をひざの間にうずめた。

18:43 それから、彼は若い者に言った。「さあ、上って行って、海のほうを見てくれ。」若い者は上って、見て来て、「何もありません。」と言った。すると、エリヤが言った。「七たびくり返しなさい。」

18:44 七度目に彼は、「あれ。人の手のひらほどの小さな雲が海から上っています。」と言った。それでエリヤは言った。「上って行って、アハブに言いなさい。『大雨に閉じ込められないうちに、車を整えて下って行きなさい。』」

18:45 しばらくすると、空は濃い雲と風で暗くなり、やがて激しい大雨となった。アハブは車に乗ってイズレエルへ行った。

18:46 主の手がエリヤの上に下ったので、彼は腰をからげてイズレエルの入口までアハブの前を走って行った。



## より深いメッセージ

靈的生活が進むにつれて、自分の中の別の部分は語ります。  
やはり利己的な生活こそが最も幸せだ。

真の宗教生活は、刺激もなく楽しくないように見える。

利己的な生き方は、絶頂の楽しみや成功がある。

最終的な決着の場がやってくる。

快樂か？

真の幸福か？

公の場で、自分の信仰を完全に捨てると公言するなら100億円あげます。

しかし信仰を選ぶなら、残りの人生は最後の最後まで貧乏が続き、清貧のうちに終える。

選択してください。問いかけてください。  
「愛と幸福をもたらすのは何か？」



マタイ6:24

だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。  
一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。  
あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。

[PSA]

37:4 主をおのれの喜びとせよ。  
主はあなたの心の願いをかなえてくださる。

新改訳 [LUK]

24:32 そこでふたりは話し合った。  
「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」

403・ まず三種類の普遍的な愛、つまり〈天界の愛・世間愛・自己愛〉の相互従属関係について述べることにします。それから、相互の流入とか移入の関係について触れ、最後に、その従属関係にもとづいて、人の状態がどうなるかを、お話します。

以上三種類の愛は、おたがいに身体の三部分に匹敵します。最高部が頭、中間部が胸と腹、第三の部分は、膝・両足です。

天界の愛が頭部にあり、世間愛が胸と腹、自己愛が両足になっている人は、創造の目的にしたがった完全な状態にあります。身体が、すべて頭部の命令にしたがうように、低い段階にある二種の愛は、最高段階の愛に仕えます。天界の愛が頭部を形成していれば、その愛が下の世間愛のほうへ流れていきます。

世間愛というと、財産への愛 *amor opum* が主軸をしめていますから、それを役立てるようにします。世間愛が媒介になって、天界の愛は自己愛へも流れ入ります。自己愛は、地位への愛 *amor dignitatum* が主軸になっており、それをまた役立てるようにします。ということで、一つの愛は、もう一つの愛に流れ入ることによって、三つの愛の相互には、役立ちへのはげましを行っています。

(2) 霊的愛というと、主のみ力による愛のこと、天界の愛のことです。人がこの愛をもとにして、何か役立ちたいと思うとすれば、人間の自然的な部分も、自分の財産やその他の善をつかって、その役立ちに協力し、人間の感覚的な部分もまた、それぞれの機能で、役立ちに協力します。以上はだれでも分かりますが、その役立ちが、自分自身の名誉だと思っています。

また、人が身体をつかってすることは、みんな頭部にある精神 *mens* の状態に呼応して行われ、なおその精神が、役立ちを愛していれば、身体もまた自分の肢体をつかって、その役立ちを實踐していくのも分かります。それはなぜかというと、意志と理性がはたらき始める原理は、頭部にあり、その働きの効果が肉体におよぶからです。



## TCR399[Ⅲ] 愛一般について

① 人間の愛は、その人の〈いのち〉そのものです。愛の性格が、その人の〈いのち〉の性格をつくります。むしろ、その人の全人間性をつくると言ったほうがいいでしょう。とは言え、人間をつくりあげるのは、その人の主調になる愛 *amor dominans*、すなわち支配愛 *amor regnans* です。

この愛は、自分の配下にたくさん派生的なものを従えています。もちろん、ちがった格好で現れますが、その一つ一つは、支配的愛に内在しており、それをもとにして、一つの王国を形成しています。主調になる愛こそ、全体の君主であり頭です。そして配下の愛を指導し、かれらを中間目標として使い、自分の目的を達成しようとし、その目的は、あらゆるものの出発であり、究極です。直接的にも間接的にも、それを達成しようとしています。

(2)② 主調的愛こそ、何にもまして愛されるべきものです。人が何にもまして愛していることからは、その本人の考えに、たえず現存しています。なぜなら、意志のうちにあるから、つまりその人の〈いのち〉そのものを造っているものだから、考えのうちにもあるわけです。

例えば、何にもまして、財産を愛している人は、それがオカネでも所有物でも、どのようにして自分のために確保しておけばいいのかを、たえず思っています。それが確保できれば、内心ほくそえみ、それを失えば、内心ガックリします。自分の心は、財産のうちにあるわけです。何にもまして、自分自身を愛している人は、一つ一つのことからの中で、自分について思いめぐらします。自分について考え、自分について語り、自分のために行動します。その人の生活は、その人の生命なのです。



(6)⑥ あらゆる種類の善と真理がわき出てくる源になる愛は、二つあります。また、あらゆる種類の悪と偽りが出る源になる愛も、二つあります。あらゆる種類の善と真理がでてくる二つの愛というと、それは〈主への愛〉と〈隣人への愛〉です。あらゆる種類の悪と偽りがでてくる二つの愛とは、自己愛と世間愛です。このような愛が支配的になると、前の二つの愛と、まっ向から対立します。

(7)⑦ 前述したように、あらゆる善と真理が出てくる二つの愛とは、〈主への愛〉と〈隣人への愛〉ですが、この二つは、人間のうちに天界を形成していきます。天界では、このような愛が支配的だからです。人のうちに天界をつくる以上、教会もつくります。また前述したように、あらゆる種類の悪と偽りが生まれてくる二つの愛は、自己愛と世間愛ですが、これが人のうちに地獄をつくります。地獄では、これが支配しているからです。したがって、人のうちにある教会を破壊します。

(8)⑧ 前述したように、あらゆる善と真理の出所である二つの愛は、天界の愛です。この愛は、霊的な内部人間をひらき、形づくっていきます。そこが住まいだからです。また、前述したように、あらゆる悪と偽りの出所である二つの愛は、地獄の愛です。これが支配的になると、霊的な内部人間を閉鎖して壊します。この愛は、その支配力の大きさや性格に応じて、人を自然的・感覚的にします。

TCR406 人が生まれて来たのは、自分のためだけでなく、他の人のためです。つまり、人が生きるのは、自分ひとりのためだけでなく、他の人々のためなのです。

主からくる愛の火は圧倒的です。

それは生命のあらゆる部分を包含しています。

雄牛：自然的な感情

石：信仰のそれぞれ

木：善い行い

水：みことばからの真理

すべては主が送られる愛で、満たされ、包まれています

これらを見ることが出来るなら、また信念を持つことが出来るなら、主とみことばから離れる言い訳を打ち破ることができます。





# 選択

最も高い理想と貴い思考から離れる時がある。

そのとき人は、神から離れ、世への関心、責任、欲望に目を向ける。

霊的な飢餓と干ばつのとき、山(高い霊的な状態)に上り、奇跡を見なければなりません。

ふらつくのを止め、選択します。

すると、神に仕えることを選択した瞬間、神の愛の火は心に流れ込むことができるようになります。そして天界的目標を鼓舞します。

神は心に強い願望を与られます。天界的な強い願望です。

神に仕えることを選択し高い目的によって鼓舞されるのを感じるなら、進むべき目的を建てます。

生活の様々な場面を見渡し、活躍すべき一つの分野を絞ります。

この分野での自分を変化させるべく、主の愛と情熱とエネルギーを得ることができるよう、祈ります。

**【課題】**

高い目的を設定して、情熱を持って生きてゆきます。

力強く実行しましょう。今週は目標を設定し、それを成し遂げるべく具体的なステップを進んでゆこうと、自分にコミットメントしましょう。

それは健康、まわりの人との関係、大事な人との関係、職業であってもかまいません。世界や社会に貢献することができるよう展望を広げましょう。自分の人生で何が可能かを考え、そこに情熱とエネルギーを注ぎます。目標を立てて、それを実現するためのステップを考えます。力強く、そして万全の注意をもって実行します。  
天界的な火によって実行してください: 神の愛の情熱です。



神の愛の聖なる火を受けます。

- 深呼吸します。
- 今週、どの部分を充実させるか思い描きます。
- 主による励ましを求めて祈ります。
- 主があなたとともにいらっしゃることを知りつつ、前向きな期待を心に抱きます。
- 心を開いて、主の愛と情熱の聖なる火を受けます。
- あなたの家族、友人、そして全天界があなたとともに歡び、励ましている声を聴きます。
- まわりにある愛と歡びを感じ取ります。
- 目標を達成する自分の姿をまぶたに思い浮かべます。
- 目標達成の情熱とエネルギーに満たされ、神に感謝を捧げます。
- あなたに神の愛が満ち、あなたからまわりにさらに愛があふれてゆく様を感じます。

## 瞑想

新改訳 [MAT]

6:33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。

そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。

1. 健康
2. 霊的成長
3. 友人・社交
4. 家族
5. 奉仕活動
6. 結婚生活
7. 仕事
8. 財政
9. 学び

10段階で各分野の幸福達成度を測ります。10最高 1最低

今週はどの分野でがんばるか、目標をたてます。



**第五週 勇気を見いだす**

**静かで、小さな声に耳を傾ける**



19:1 アハブは、エリヤがしたすべての事と、預言者たちを剣で皆殺しにしたこととを  
残らずイゼベルに告げた。

19:2 すると、イゼベルは使者をエリヤのところに遣わして言った。「もしも私が、あす  
の今ごろまでに、あなたのいのちをあの人たちのひとりのいのちのようにしなかった  
なら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように。」

19:3 彼は恐れて立ち、自分のいのちを救うため立ち去った。ユダのベエル・シェバ  
に来たとき、若い者をそこに残し、

19:4 自分は荒野へ一日の道のりをはいって行った。彼は、えにしだの木の陰にす  
わり、自分の死を願って言った。「主よ。もう十分です。私のいのちを取ってください。  
私は先祖たちにまさっていませんから。」

19:5 彼がえにしだの木の下で横になって眠っていると、ひとりの御使いが彼にさ  
わって、「起きて、食べなさい。」と言った。

19:6 彼は見た。すると、彼の頭のところに、焼け石で焼いたパン菓子一つと、水の  
はいったつぼがあった。彼はそれを食べ、そして飲んで、また横になった。

19:7 それから、主の使いがもう一度戻って来て、彼にさわり、「起きて、食べなさい。  
旅はまだ遠いのだから。」と言った。

19:8 そこで、彼は起きて、食べ、そして飲み、この食べ物に力を得て、四十日四十  
夜、歩いて神の山ホレブに着いた。

19:9 彼はそこにあるほら穴にはいり、そこで一夜を過ごした。すると、彼への主のことばがあった。主は「エリヤよ。ここで何をしているのか。」と仰せられた。

19:10 エリヤは答えた。「私は万軍の神、主に、熱心に仕えました。しかし、イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうとねらっています。」

19:11 主は仰せられた。「外に出て、山の上で主の前に立て。」すると、そのとき、主が通り過ぎられ、主の前で、激しい大風が山々を裂き、岩々を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風のあとに地震が起こったが、地震の中にも主はおられなかった。

19:12 地震のあとに火があったが、火の中にも主はおられなかった。火のあとに、かすかな細い声があった。

19:13 エリヤはこれを聞くと、すぐに外套で顔をおおい、外に出て、ほら穴の入口に立った。すると、声が聞こえてこう言った。「エリヤよ。ここで何をしているのか。」

19:14 エリヤは答えた。「私は万軍の神、主に、熱心に仕えました。しかし、イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうとねらっています。」

19:15 主は彼に仰せられた。「さあ、ダマスコの荒野へ帰って行け。そこに行き、ハザエルに油をそそいで、アラムの王とせよ。

19:16 また、ニムシの子エフーに油をそそいで、イスラエルの王とせよ。また、アベル・メホラの出のシャファテの子エリシャに油をそそいで、あなたに代わる預言者とせよ。

19:17 ハザエルの剣をのがれる者をエフーが殺し、エフーの剣をのがれる者をエリシャが殺す。

19:18 しかし、わたしはイスラエルの中に七千人を残しておく。これらの者はみな、バアルにひざをかがめず、バアルに口づけしなかった者である。」



炎を呼ぶ勝負で、エリヤは勝利したものと思います。三年半もの戦いは勝利に終わります。アハブの戦車の前で、雨を呼んだとき、深い安堵を感じたことでしょう。

しかし、エリヤはイゼベルのことを忘れていました。彼女はアハブ王よりも難物で、より危険な人物です。

「もしも私が、あすの今ごろまでに、あなたのいのちをあの人たち(殺された預言者達)のひとりのいのちのようにしなかったなら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように。」不気味な覚悟を述べる呪いです。

エリヤは物事の展開に驚き、失意に追いやられます。イスラエルからユダのベエル・シェバに行き、そこから荒野へと進みます。えにしだの木の下に座り祈ります。「主よ。もう十分です。私のいのちを取ってください。私は先祖たちにまさっていませんから。」

すると天使がやってきて励まします。

「起きて、食べなさい。」食べて横になるとまた天使がやってきます。「起きて、食べなさい。旅はまだ遠いから。」





彼は食べます。すると、天界の食物と水は彼に旅を続ける力を与えます。エホバが十戒を与えたホレブ山へ、40日と40夜の旅です。そこに着くとエリヤは洞穴に隠れます。



エホバは「エリヤよ。ここで何をしているのか。」と仰せられます。

エリヤは不満で答えます。「私はエホバに熱心に仕えました。わたしは一人で、あらゆる預言者は殺されました。祭壇は壊され、契約は捨てられました。そしてイゼベルとアハブはわたしを殺そうとしています。」

エホバは山に行き、そこで立てと命じます。そこはエホバとモーセが会話した山です。

大風がやってきて山を裂き、岩を粉々に砕きます。そして地震が起こり、火がまわりを包みます。



火のあとに、**かすかな細い声**があります。  
エリヤはこれを聞くと、エホバが語ろうとされていると知ります。  
エホバはまた同じ質問をします。  
「エリヤよ。ここで何をしているのか。」  
エリヤは同じ応えを返します。

エホバの応えは、**あなたはひとりではない**、という強い励ましです。  
エホバはエリヤにイスラエルとシリアに新しい王に油を注げと命じられます。  
エフー と ハザエルです。  
またエリヤの後を次ぐ預言者、エリシャに油を注がせます。

さらに、エホバは、イスラエルにはバアルに屈しない7千人がいることを述べます。  
カづけられたエリヤはイスラエルに戻り、マントをエリシャに掛けます。





## より深いメッセージ

これは不幸と後退、絶望の物語です。それらはしばしば一緒になってやってきます。それらは人生で一挙に起こります。悲劇が起こり、その悲劇に準備などできていません。自分がもはや信じられないからというわけではありません。信じています！ただ、圧倒的で、自分には大きすぎるのです。



心が静寂であるなら、主が永遠に消えることのない火をくださることを知っています。しかし、現実の世界に戻り、闘うとき、孤独にとられ恐怖があります。

現実に生きてゆくのに必要なものが押し寄せ、信仰生活を送ることなど不可能に思えます。

## 内意と対応

エリヤの40日と40夜の旅 40: 試練と争闘の時。イエスの荒野での試練

激しく大きい風: すべてを明らかにする力強い真理

地震: 目の間にある人生の問題をすべて解決してしまう、圧倒的な変化

火: 抱きあげ不幸を消し去ってしまう、圧倒的に偉大な愛

エホバはそのどこにもおられなかった: 主の愛は危機の解決には現れない

**かすかな細い声:** 主の愛は私たちが必要とするもので、静かな瞑想と祈りの内に現れます。

## エホバの助言

1. 「主の救いを黙って待つのは良い。」(哀歌 3:26)
2. あなたは一人ではない、あなたの内には力があり、善なるものに真に忠実である感情がある。旅は続く。
3. 主が私たちに望まれていることがある。主の慰めを得たなら、元に戻り、自分の人生を生き抜きなさい。

## 詩編 142:1

私は主に向かい、声をあげて叫びます。  
声をあげ、主にあわれみを請います。



エリヤは自分の計画がすべて失敗に終わったことに気づきます。  
預言者たちは殺されました(信条に基づいて生きることは難しい)。  
祭壇は壊されました(祈るが、助けが来るとは思えない)。  
契約は捨てられました(心の中にはたくさんの物があふれすぎている – 自分の心の内でこれが起こっていることを思い出して – これは神に対して真ではない)。

**そこから抜け出して逃げなさい! エリヤはそうしました。**あなたを圧倒しているそれらの感情から逃げなさい。そして主を見つけ出そうと。瞑想し祈り、エホバのかすかな細い声に耳を傾けなさい。

As the angel gave Elijah food, it is amazing how, when we are sad and weighed down by circumstance, there is something that keeps us going. The way is long. We experience, perhaps for quite a while, a time when things are bleak. It takes time to overcome the grief of the loss of loved ones, or the impact of losing your job. It takes time to hold onto and confirm our principles. エリヤのホレブ山への長い逃避行は、この時点における私たちの強さとなっています。屈しはしたが、まだ破壊されてはいません。霊的なホレブは、私たちの奥底にある聖なる場所です。そこでは主と真に語り合えることができると感じ、自分のつらいとと思っていることを吐露できる場所です。エリヤはエホバを見いだすまで40日間かかりましたが、エホバは常に彼とともにいました。 – エリヤがエホバの存在を感じることはできなかつただけです。孤独だと感じていても、主はともにおられます。そして進む力を与え続けておられます。

Elijah prayed for death because he was “all alone.” What is this feeling of being “all alone” in fighting temptation? Don’t we feel that - especially when we are **自分自身の洞穴**, feeling we can’t get the comfort we need from loved ones? It’s not that they won’t offer it, it is that we can’t feel its effect. We need the Lord’s comfort.

苦悩にあっては、それを**すべて一挙に解決してしまうもの**を探そうという試練にあります。自分の不幸を劇的にそして力強く終了させたいと望みます。弱さがあるなら、何か圧倒的なものによってそれを消散させようと望みます。これが風・地震・火によって表されています。

**岩を千々に砕く激しい風**：古い観念を消散させる力強い真理 自分が正確に何をなすべきか知り、最後にはうまくゆくと確信するための確証を見たいと願うこと

**地震**：人生を転換させる変化—自分の問題だとそのとき見える不幸を終わらせる何か(例：愛する人を失ったりすると、今の悲しみを捨てようと、職を投げ出し、あるいは住所を移そうとします。これは単にストレスを増し加えているにすぎません)

**火**：悲しみを終了させるため力強い、卓越した愛を求めること



現代の危機克服法を考えてみます。

仕事でものすごいストレスを感じています。そのときの解決法の一つは仕事を辞めること！といわれています。自分は会社をどんなにひどいところかと思っているかをドラマチックに表明するので、本人にも魅力的です。

結婚したばかりの夫婦が最初の大げんかをします。自分の主張を通そうとして、夫は離婚を口にします。妻を脅して無理矢理自分が正しいとするのです。

人生において、その結果がどうなるかはわかりません。

共通点は、ストレスに対する力強い解答に見えること、激しい怒りや悲しみにいる時、心に浮かぶ最初の思いつきであることです。人は深い思慮なし、他の選択肢の考慮なしに、「問題」から「解決」に一挙に飛ぼうとそそのかれます。

エリヤの旅とエホバとの会話は、主が導きたい方向に向けての解決法を探していることを表しています。

「エホバ」は風の中にも、地震の中にも、火の中にもいません。ここで神の名は重要です。「エホバ」は神の愛を表します。「神」は、その真理を表します。

悲しみの中にあっては人は主の愛と慰めを必要とします。そしてその知恵の静かな言葉を必要とします。

「かすかな細い声」は新教会でこう説明されています。高い音であれば、響き渡って聞きやすい。南アフリカの小さな州であるレソトという山にいたことがあります。人とともに山を歩いていると、彼は谷を超えた別の山にいる人間と会話を始めました。ふつうの声で会話しているにもかかわらず、まったく問題なく聞こえます。海に近い地点であれば聞こえないのですが、山の上では音は通りやすいのです。



人は深い心、神の山まで逃げこむことができます。そこでは劇的な解決を求めることを止め、いわば、静寂の中に主の愛の声に耳を傾けます。

「主は、その聖なる宮におられる。全地よ。その御前に静まれ。」(ハバクク 2:20).  
主は、私たちがここで何をしているか問われ、私たちは自分の失敗や孤独を語りません。

すると主は私たちの内には力があることを教えてくれます。それは実際に成功に導く力です。これこそ勇敢な生き方です。- 問題から顔を背けず、主が問題に立ち向かう力を与えておられることを知ります。

エリヤは三人に油を注がねばなりません。

ハゼエル「神が見たまう者」

エフー「エホバがおられる!」

エリシャ「神は救い主」

そのそれぞれの名は、主の存在を心の中で認める力を語っています。

バアルに屈しない7千人は、人の善い感情を表します。主が与えられ、私たちを支えてくれる幾百、幾千の聖なる感情です。

しよげかえったときに展望をえます。きつとつらい時ですが、そこから自分の役割と、霊的成長における主の役割がわかります。

日常生活に戻る力を得て、なすべきことを行い続けます。

840. 「神は思い起こされた」とは、試練の終わり・刷新の始まりであることは、前後関係から分かります。神が思い起こされるとは、狭い意味では、神が哀れまれたという意味です。神の「思い起こし」とは、とりわけ試練・誘惑の後に使われる述語で、新しい光の照らしです。

試練・誘惑が続いている間、人は主が不在だと思います。悪鬼の暗躍があり、神は存在しないと思われるほど、絶望を感じさせます。しかし主は、そのとき信じられないほど近くに現存しておられます。試練・誘惑が終わると慰めをいただき、初めて主のご臨在を信じます。「神は思い起こされた」は、試練の終わりと刷新の始まりでした。それに気づいた結果、そう記されました。



ダビデのマスキール。彼が洞窟にいたときに。祈り

142:1 私は主に向かい、声をあげて叫びます。声をあげ、主にあわれみを請います。

142:2 私は御前に自分の嘆きを注ぎ出し、私の苦しみを御前に言い表わします。

142:3 私の霊が私のうちで衰え果てたとき、あなたこそ、私の道を知っておられる方です。私が歩く、その道に、彼らは、私に、わなを仕掛けています。

142:4 私の右のほうに目を注いで、見てください。私を顧みる者もなく、私の逃げる所もなくなり、私のたましいに気を配る者もいません。

142:5 主よ。私はあなたに叫んで、言いました。「あなたは私の避け所、生ける者の地で、私の分の土地です。

142:6 私の叫びに耳を留めてください。私はひどく、おとしめられていますから。どうか、私を迫害する者から救い出してください。彼らは私よりも強いのです。

142:7 私のたましいを、牢獄から連れ出し、私があなたの御名に感謝するようにしてください。正しい者たちが私の回りに集まることでしょう。あなたが私に良くしてくださいからです。」



There are **spiritual temptations or trials** and there are **natural temptations or trials**.

**Spiritual temptations** belong to the internal part of a person, whereas **natural trials** belong to the external part.

**Spiritual temptations** sometimes occur separately from **natural trials**, at other times together with them.

**Natural trials** are when a person suffers in ways that affect his physical body, position in society, and wealth, in short his natural life, that is, the kinds of sufferings he undergoes when he is sick, unfortunate, persecuted, wrongly punished and so on. Anxious feelings in such circumstances are what are meant by **natural trials**. But these trials contribute nothing whatever to the person's **spiritual life**; nor should they be called trials or temptations but miseries. ...

But **spiritual temptations** belong to the internal man; they are attacks made on his **spiritual life**. Anxious feelings in this case do not exist on account of any loss in their natural life, but on account of the loss of faith and charity, and consequently of salvation. **Natural trials** are often the means by which those **spiritual temptations** come about. For if a person is suffering **natural trials** - that is to say, sickness, sorrow, loss of wealth or position, and so on - and during them comes to think of the Lord's help, His Providence... then **spiritual temptation** is bound up with **natural trial**.

## 哀歌

3:22 私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。

3:23 それは朝ごとに新しい。「あなたの真実は力強い。

3:24 主こそ、私の受ける分です。」と私のたましいは言う。それゆえ、私は主を待ち望む。

3:25 主はいつくしみ深い。主を待ち望む者、主を求めるたましいに。

3:26 主の救いを黙って待つのは良い。

3:27 人が、若い時に、くびきを負うのは良い。

3:28 それを負わされたなら、ひとり黙ってすわっているがよい。

3:29 口をちりにつけよ。もしや希望があるかもしれない。

3:30 自分を打つ者に頬を与え、十分そしりを受けよ。

3:31 主は、いつまでも見放してはおられない。

3:32 たとい悩みを受けても、主は、その豊かな恵みによって、あわれんでくださる。

[MAR]

13:11 彼らに捕えられ、引き渡されたとき、何と言おうかなどと案じるには及びません。

ただ、そのとき自分に示されることを、話さない。

話すのはあなたがたではなく、聖霊です。



## 適用 勇気を発見する

洞穴にいるエリヤは、試練のときの私たちを描いています。  
特にこの時は、神の声を聞かなければなりません。それは励まして、洞穴から出て、生活に戻れと言っています。それは役立ちの生活です。

「courage: 勇気」という言葉は、フランスのheartを意味する言葉から来ています。その定義は、「恐れを克服し、選んだ道からそれることなしに、危機や困難、不安、苦痛に対して、立ち向かう能力」です。

今週、私たちは、エリヤと同じように、過去や未来の不安という暗い洞窟から出るよう召されています。

神は勇気を持って進めと呼ばれています。

もし恐怖が来るなら、それは勇気を持って前進するチャンスだとみてください。

かすかな細い声を聞くことができ、恐怖を超えて勝利に進むことができます。

主があなたを励ましている声を聞いてください。

守護天使が「恐れるな」と言っているのを心に描いてください。

恐怖はあなたを押しとどめる力など持っていないことに気づいてください。

全能の神は、あなたに素晴らしい計画を用意していらっしやいます。

エレミヤ29:11 わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。

——主の御告げ。——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなた

がたに将来と希望を与えるためのものだ。

やらなければならないことは、神の励ましを聞き、洞窟から抜け出す一步を歩むことです。

勇気を出して、生活の場に戻りましょう。

## 課題 神のかすかな細い声を聞く

落胆してはなりません。愛の神の声が力強い励ましとなるよう耳を傾け、前進し勇敢に生きなさい。神はあなたとともにおられます。勝利はすぐそばです。

### メッセージ

ピリピ4:13 私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

マタイ19:26「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」

イザヤ40:31しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れぬ。

詩編 23:4 たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れませぬ。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。



創世記12:1 その後、主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。

ヨシュア1:6強くあれ。雄々しくあれ。

ヨハネ16:33あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。

ヨハネ14:18わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。

マルコ8:34自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

エレミヤ 31:33わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。

## Listen for the Still, Small Voice:

Whenever you find yourself “in the cave” with a disempowering emotion, use these steps to help change the emotion, come out of the cave and courageously go forward.

- First, identify the emotion. Then ask yourself, “Why am I here?” “What is the false god that is ruling in my life?” “What is keeping me in the cave?”
- If you have experienced this emotion before, you already know where it takes you. Is this where you want to go? What has this emotion cost you in the past? What damage has it done? How has it hurt you and your relationships?
- Next, identify the source of this emotion. What is it really? Is it a desire to get attention, be right, feel superior, or get sympathy? Then ask yourself, “Is this who I really want to be?”
- Next, ask yourself, “What would I have to forget in order to believe the false messages surrounding this emotion?” For example, “I would have to forget that God is with me even now, and that I am not alone.” “I would have to forget that I am a child of God, and that God cares for me at all times.”
- Next, change your thoughts. Shift your focus to what you want to remember. For example, “I want to remember the love and care in my relationships.” “I want to remember that I am blessed in so many ways.”

- Now let the inner dialogue become quiet. In this holy silence, listen for the still small voice of the loving God.
- Pray for the Lord to renew your strength so that you might have • the courage to move forward.
- With this new light, describe how your life will be changed by moving beyond the disempowering emotion. What will it feel like? What thoughts will you be thinking? What actions will you be taking? Imagine yourself feeling new emotions arise in you as you continue with this new focus.
- What new emotion or qualities do you want to cultivate in your life? With these new qualities • as part of your life, how will your life change? These empowering emotions are God's presence with you.
- One at a time, imagine yourself filled with each of these qualities. Use courage to prayerfully summon these qualities when you need them. Put them into your life with focus and passion.
- Acknowledge all that the Lord is giving you, and let gratitude fill your heart and soul. Go forward.





**第六週 良心に悟る アハブの後悔**

21:1 このことがあって後のこと。イズレエル人ナボテはイズレエルにぶどう畑を持っていた。それはサマリヤの王アハブの宮殿のそばにあった。

21:2 アハブはナボテに次のように言って頼んだ。「あなたのぶどう畑を私に譲ってもらいたい。あれは私の家のすぐ隣にあるので、私の野菜畑にしたいのだが。その代わりに、あれよりもっと良いぶどう畑をあげよう。もしあなたがそれでよいと思うなら、それ相当の代価を銀で支払おう。」

21:3 ナボテはアハブに言った。「主によって、私には、ありえないことです。私の先祖のゆずりの地をあなたに与えるとは。」

21:4 アハブは不きげんになり、激しく怒りながら、自分の家にはいった。イズレエル人ナボテが彼に、「私の先祖のゆずりの地をあなたに譲れません。」と言ったからである。彼は寝台に横になり、顔をそむけて食事もしようとはしなかった。

21:5 彼の妻イゼベルは彼のもとにはいって来て言った。「あなたは どうしてそんなに不きげんで、食事もなさらないのですか。」

21:6 そこで、アハブは彼女に言った。「私がイズレエル人ナボテに『金を払うからあなたのぶどう畑を譲ってほしい。それとも、あなたが望むなら、その代わりにぶどう畑をやってもよい。』と言ったのに、彼は『私のぶどう畑はあなたに譲れません。』と答えたからだ。」

21:7 妻イゼベルは彼に言った。「今、あなたはイスラエルの王権をとっているのでしょうか。さあ、起きて食事をし、元気を出してください。この私がイズレエル人ナボテのぶどう畑をあなたのために手に入れてあげましょう。」

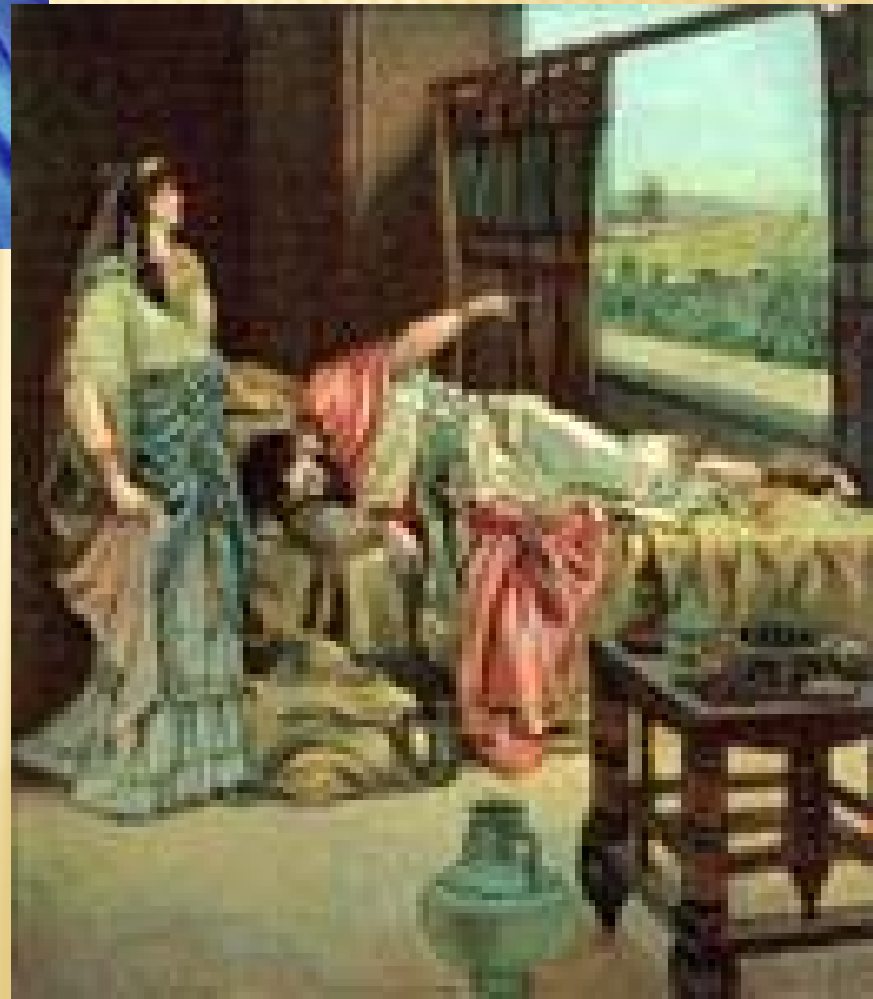
21:8 彼女はアハブの名で手紙を書き、彼の印で封印し、ナボテの町に住む長老たちとおもだった人々にその手紙を送った。

21:9 手紙にはこう書いていた。「断食を布告し、ナボテを民の前に引き出してすわらせ、

21:10 彼の前にふたりのよこしまな者をすわらせ、彼らに『おまえは神と王をのろった。』と言って証言させなさい。そして、彼を外に引き出し、石打ちにして殺しなさい。」

- 21:11 そこで、その町の人々、つまり、その町に住んでいる長老たちとおもだった人々は、イゼベルが彼らに言いつけたとおりに、彼女が手紙に書き送ったとおりに行なった。
- 21:12 彼らは断食を布告し、ナボテを民の前に引き出してすわらせた。
- 21:13 そこに、ふたりのよこしまな者がはいって来て、彼の前にすわった。よこしまな者たちは民の前で、ナボテが神と王をのろった、と言って証言した。そこで人々は彼を町の外に引き出し、石打ちにして殺した。
- 21:14 こうして、彼らはイゼベルに、「ナボテは石打ちにされて殺された。」と言ってよこした。
- 21:15 イゼベルはナボテが石打ちにされて殺されたことを聞くとすぐ、アハブに言った。「起きて、イスレエル人ナボテが、あなたに売ることを拒んだあのぶどう畑を取り上げなさい。もうナボテは生きていません。死んだのです。」
- 21:16 アハブはナボテが死んだと聞いてすぐ、立って、イスレエル人ナボテのぶどう畑を取り上げようと下って行った。
- 21:17 そのとき、ティシュベ人エリヤに次のような主のことばがあった。
- 21:18 「さあ、サマリヤにいるイスラエルの王アハブに会いに下って行け。今、彼はナボテのぶどう畑を取り上げようと、そこに下って来ている。
- 21:19 彼にこう言え。『主はこう仰せられる。あなたはよくも人殺しをして、取り上げたものだ。』また、彼に言え。『主はこう仰せられる。犬どもがナボテの血をなめたその場所で、その犬どもがまた、あなたの血をなめる。』」
- 21:20 アハブがエリヤに、「**あなたはまた、私を見つけたのか。わが敵よ。**」と言うと、エリヤは答えた。「あなたが裏切って主の目の前に悪を行なったので、私は見つけたのだ。
- 21:29 「あなたはアハブがわたしの前にへりくだっているのを見たか。彼がわたしの前にへりくだっているの、彼の生きている間は、わざわざを下さない。しかし、彼の子の時代に、彼の家にわざわざを下す。」











ナボテのブドウ畑：人の内にある教会（個人の宗教）、少なくともその一部。  
なんらかの価値、愛、貴いもの

アハブがブドウ畑を庭かハーブ畑にしようと望んだこと：何かを望むとき、価値観がじゃまをします。自分の宗教を、神からのメッセージではなく相関的なもの、価値の低いものとする。

ナボテの拒否 それは永遠にナボテの家族のもの アハブは不機嫌に：その価値観は真であるが、同時にじゃまでもあるという状態

イゼベルが殺人と詐欺によってぶどう畑を得ようと陰謀すること：もっともらしい理屈や隠れた嘘で、悪いと知っていることを正当化して行うこと

アハブがブドウ畑を得る：陰謀に屈するなら、自分の宗教的なものが破壊される

しかしエリヤは神からまっすぐにきた真理を語る：みことばをそのまま否定することはできない。良心は人に安息を与えず、ごまかしから戻らざるを得なくなる。

アハブの後悔：利己的な自我が静まる

アハブの子孫は死に絶える。：人はこのような試練があることを認めなければならぬ。そしてみことばを素直に受け入れる誠実さを身につけなければなりません。

詩編 116:1-8, 12-14

116:1 私は主を愛する。主は私の声、私の願いを聞いてくださるから。

116:2 主は、私に耳を傾けられるので、私は生きるかぎり主を呼び求めよう。

116:3 死の綱が私を取り巻き、よみの恐怖が私を襲い、私は苦しみと悲しみの中にあつた。

116:4 そのとき、私は主の御名を呼び求めた。「主よ。どうか私のいのちを助け出してください。」

116:5 主は情け深く、正しい。まことに、私たちの神はあわれみ深い。

116:6 主はわきまえのない者を守られる。私がおとしめられたとき、私をお救いになった。

116:7 私のたましいよ。おまえの全きいこいに戻れ。主はおまえに、良くしてくださったからだ。

116:8 まことに、あなたは私のたましいを死から、私の目を涙から、私の足をつまずきから、救い出されました。

116:12 主が、ことごとく私に良くしてくださったことについて、私は主に何をお返ししようか。

116:13 私は救いの杯をかかげ、主の御名を呼び求めよう。

116:14 私は、自分の誓いを主に果たそう。ああ、御民すべてのいる所で。



AC1937

⑤ これが当てはまるのは、何よりも試練・誘惑のときです。人は悪霊が注入しひけらかす悪と偽りに対抗して、自己強制します。そのとき人は、誘惑の状態にないときより、ずっと自由です。もちろん誘惑の最中にはそれを感じません。本人は心の内部では自由があり、その自由にもとづいて、攻撃してくる悪の力や強さに対決できるほどになり、悪に打ち勝ちたいと思います。

この自由は、主からいただくものです。主はその自由を人の良心に浸透させ、それによって、本人があたかも自力でやるかのようにして、悪に打ち勝つようにしていただきます。

このような自由を通して、人は、主が善を働かせ得るようなエゴ *proprium*をいただきます。こうして、自由に獲得したエゴ、つまり自由にいただいたエゴなくしては、だれ一人自己改革ができません。なぜなら良心という新しい意志をいただくことは出来ないからです。この自由こそ、主から流入してくる善と真理の場そのものです。したがって、試練・誘惑のとき、意志と自由にもとづいて抵抗しない人は、屈服してしまいます。



## マルコ

8:35 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。

8:36 人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。

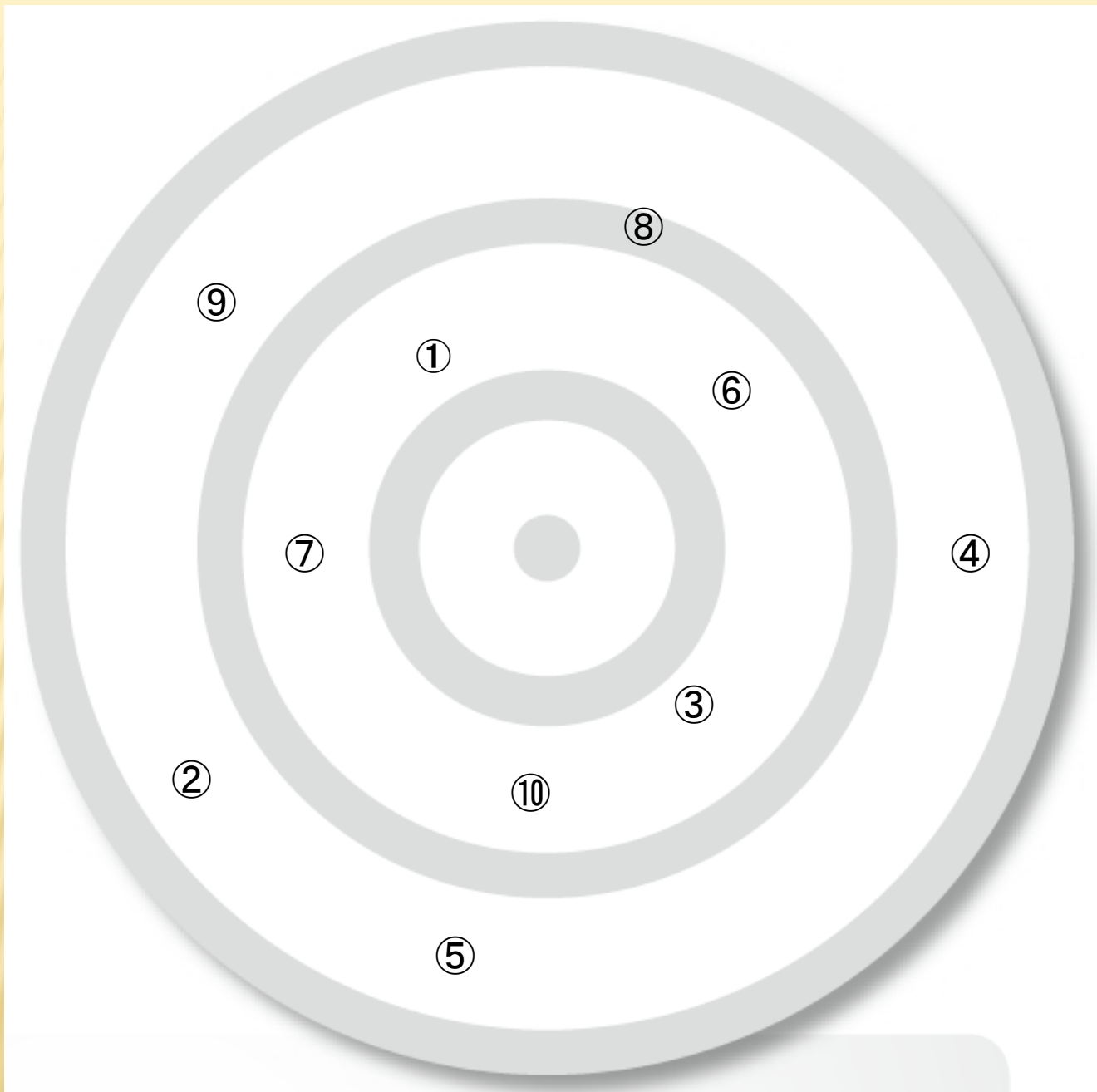
8:37 自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。

罪「amartia - 目標をはずす 失う











## 第七週 勇敢に生きる

前進し勇敢に生きてゆきましょう。力強く、目的を持って。

神のみことばに基づくとき、自分の確信からわき出る強さを感じてください。すると神の約束があなたの人生に奇跡を起こします。

2:1 主がエリヤをたつまきに乘せて天に上げられるとき、エリヤはエリシャを連れてギルガルから出て行った。

2:2 エリヤはエリシャに、「ここにとどまっていなさい。主が私をベテルに遣わされたから。」と言ったが、エリシャは言った。「主は生きておられ、あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らはベテルに下って行った。

2:3 すると、ベテルの預言者のともがらがエリシャのところに出て来て、彼に言った。「きょう、主があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。」エリシャは、「私も知っているが、黙っていてください。」と答えた。

2:4 それからエリヤは彼に、「エリシャ。ここにとどまっていなさい。主が私をエリコに遣わされたから。」と言った。しかし、彼は言った。「主は生きておられ、あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、彼らはエリコに来た。

2:5 エリコの預言者のともがらがエリシャに近づいて来て、彼に言った。「きょう、主があなたの主人をあなたから取り上げられることを知っていますか。」エリシャは、「私も知っているが、黙っていてください。」と答えた。

2:6 エリヤは彼に、「ここにとどまっていなさい。主が私をヨルダンへ遣わされたから。」と言った。しかし、彼は言った。「主は生きておられ、あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」こうして、ふたりは進んで行った。

2:7 預言者のともがらのうち五十人が行って、遠く離れて立っていた。ふたりがヨルダン川のほとりに立ったとき、

2:8 エリヤは自分の外套を取り、それを丸めて水を打った。すると、水は両側に分かれた。それでふたりはかわいた土の上を渡った。

2:9 渡り終わると、エリヤはエリシャに言った。「私はあなたのために何をしようか。私があなただのところから取り去られる前に、求めなさい。」すると、エリシャは、「では、あなたの霊の、二つの分け前が私のものになりますように。」と言った。



2:10 エリヤは言った。「あなたはむずかしい注文をする。しかし、もし、私があなたのところから取り去られるとき、あなたが私を見ることができれば、そのことがあなたにかなえられよう。できないなら、そうはならない。」

2:11 こうして、彼らがなお進みながら話していると、なんと、一台の火の戦車と火の馬とが現われ、このふたりの間を分け隔て、エリヤは、たつまきに乗って天へ上って行った。

2:12 エリシャはこれを見て、「わが父。わが父。イスラエルの戦車と騎兵たち。」と叫んでいたが、彼はもう見えなかった。そこで、彼は自分の着物をつかみ、それを二つに引き裂いた。

2:13 それから、彼はエリヤの身から落ちた外套を拾い上げ、引き返してヨルダン川の岸边に立った。

2:14 彼はエリヤの身から落ちた外套を取って水を打ち、「エリヤの神、主は、どこにおられるのですか。」と言い、彼が再び水を打つと、水が両側に分かれたので、エリシャは渡った。

2:15 エリコの預言者のともがらは、遠くから彼を見て、「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている。」と言い、彼を迎えに行き、地に伏して彼に礼をした。

2:16 彼らはエリシャに言った。「しもべたちのところに五十人の力ある者がいます。どうか彼らをあなたのご主人を捜しに行かせてください。主の霊が彼を運んで、どこかの山か谷に彼を投げられたのかもしれない。」するとエリシャは、「人をやってはいけません。」と言った・B

2:17 しかし、彼らがしつこく彼に願ったので、ついにエリシャは、「やりなさい。」と言った。それで、彼らは五十人を遣わした。彼らは、三日間、捜したが、彼を見つけることはできなかった。

2:18 彼らはエリシャがエリコにとどまっているところへ帰って来た。エリシャは彼らに言った。「行かないようにと、あなたがたに言ったではありませんか。」











## 主な相応

それはギルガルから始まった。

主のみことばから強く膨大な真理を学びます。たとえば、真理は愛すべきだということを知ります。あるいは嫌悪は悪いことだと知ります。さらに深い霊的な結婚があることを学びます。

## そしてベテルに移った

自分がさらに昇り、不誠実と闘う真理を見つけ、嫌悪と闘う真理、真の結婚にいたるための真理を発見します。これらの真理は生き方を善い方向に向かわせてくれます。

## エリコに進む

これらの価値に対して道徳的な接近を図ります。どうすれば人を欺かないか、誠意をもって語り行うにはどうすれば善いか。結婚相手と善き友人であり、信頼を築き、正直なコミュニケーションを育てるにはどうすればいいか。

Mt. Carmel

Jezreel

Sāmaria

ベテル

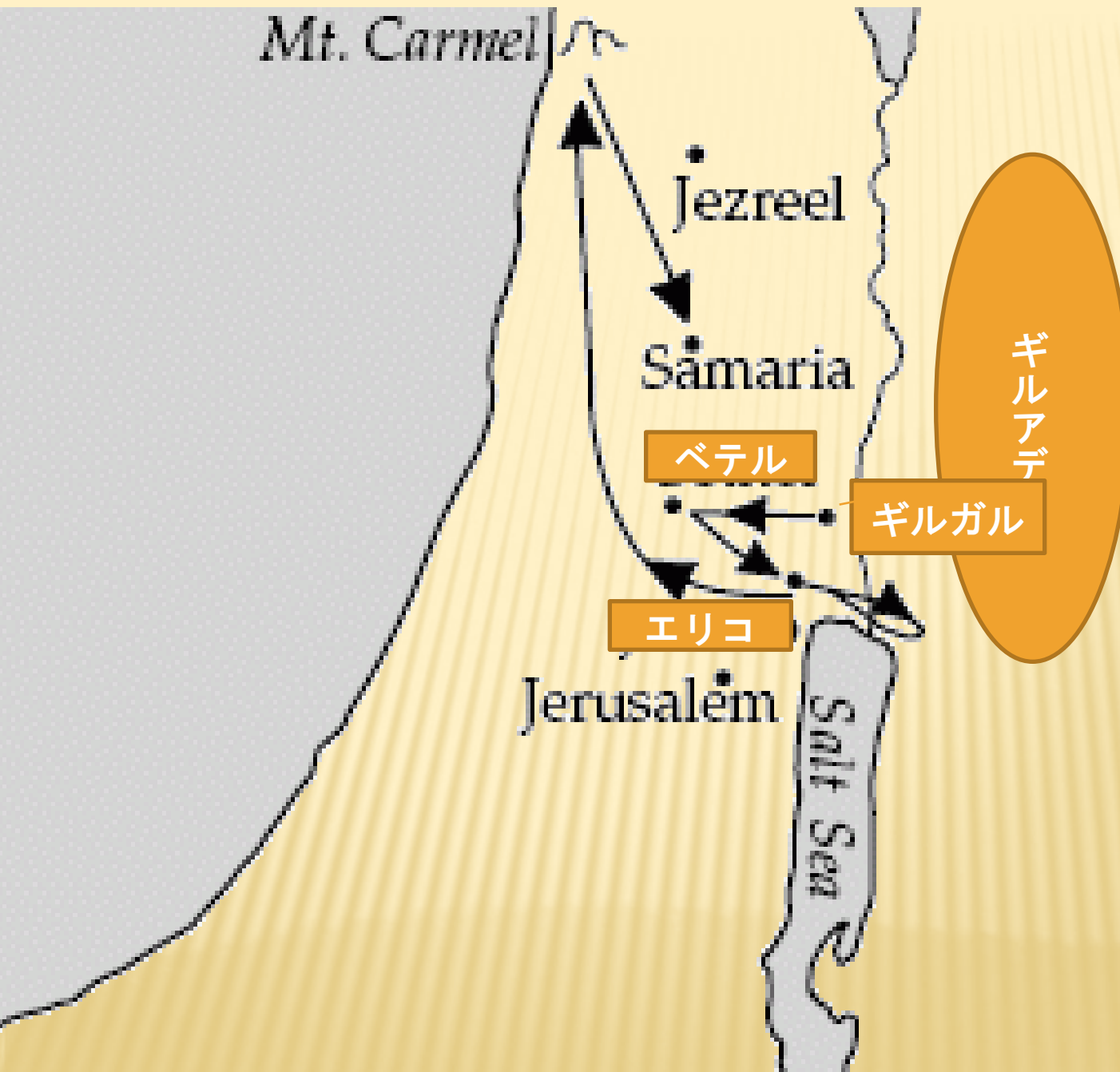
ギルガル

エリコ

Jerusalem

Salt Sea

ギルアデ





## ヨルダン川を別つ

ヨルダン川が障害となるとき、それは価値実現をじゃまするあらゆる偽りの概念を表します。それを追い払います。

## ギルアデの地を通る

ここは現実の生活の領域です。語るために語らず歩くために歩きません。日々の生活の中で誠実さを実践します。これを日々意識して、思慮深く行います。怒りにまかせたり、嫌ったりしません。不義を拒み、何年もかけて愛する人をより傷つけないことを学びます。そして信頼を築き、優しささえも身につけます。

## エリシャはエリヤから離れることができた

旅のどの時点においても、夢を離れることができます。そして単に語り望み、夢見るだけの世界へ。しかしもしそうすればこの夢は決して「救い」とはなりません。なぜならエリシャとは「神は救い主である」という意味だからです。(エリヤ 主こそ神である)

しかしエリシャは離れませんでした。

夢を持ち続け、それを現実にしようと努めます。

## 奇跡

この霊的旅を続けることで、心の中に実に素晴らしいことが起こります。抱き熱心に実践してきた信条が主の火によって満たされます。意識的な心から引き上げられ、自分のうちの天界の一部となります。これが、勇敢に生きることによって得られるものです。

AC3182. 人は憎しみをいだいてはいけない、憎しみをいだくことは、その人をその瞬間殺していることになるという真理は、教義によって教えられています。人は最初の頃、これを認めることはほとんどありません。

ところが自己改革が進むと、それが、生き様を示す教義事項になります。

そして遂には、それに従って生きるようになると同時に、教義事項として考えるのでなく、〈いのち〉に根ざして行うようになります。

こうなると教義の真理は、自然的なものから高められ分離されて、合理性の中で、善に植えつけられます。

そうなると、自然的人間からくる特有の詭弁(きべん)を弄(ろう)して、疑いをさしはさむ余地がなくなり、反論しなくなります。

## エレミヤ

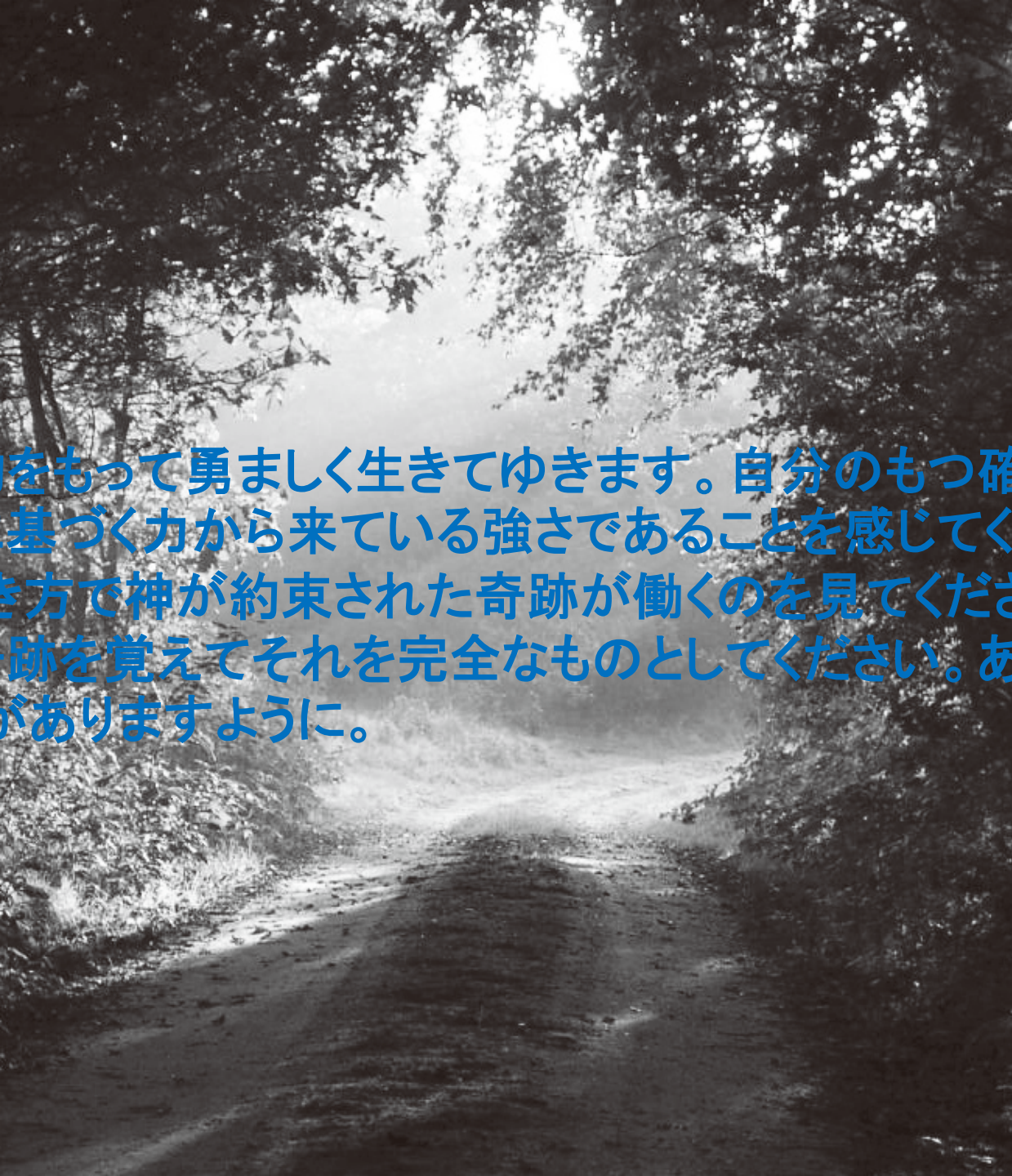
31:31 見よ。その日が来る。——主の御告げ。——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。

31:33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——主の御告げ。——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

31:34 そのようにして、人々はもはや、『主を知れ。』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——主の御告げ。——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」



1. 無自覚の無能 Unconscious Incompetence  
自覚のない悪行
2. 自覚せる無能 Conscious Incompetence  
自覚のある悪行
3. 自覚せる有能 Conscious Competence  
意識的な善行
4. 無自覚の有能 Unconscious Competence  
無意識の善行



強さと目的をもって勇ましく生きてゆきます。自分のもつ確信は神のみことばに基づく力から来ている強さであることを感じてください。自分の生き方で神が約束された奇跡が働くのを見てください。道々起こった奇跡を覚えてそれを完全なものとしてください。あなたの人生に祝福がありますように。



## 瞑想

次の句を日々瞑想します。

「(それは人にはできないことです。)  
しかし、神にはどんなことでもできます。」

マタイ 19:26

高い目標を達成するよう励ましてくれる聖書の句を  
日々瞑想します。

より高い目的を忘れないでください。

勇ましく生きてゆきます!